

2022 March

東京都市大学 校友会
TOKYO CITY UNIVERSITY

都市

vol.09



大学と卒業生との絆

——キーワードは、共感・協調・共有・協力——

武蔵工業大学と東横学園女子短期大学が統合し、東京都市大学（2009年名称変更）として初めての卒業生を送り出した2013年に、これまでの全卒業生の同窓会として発足した東京都市大学 校友会。来たる2023年には10周年を迎えます。さらに、2029年には大学の創立100周年を控え、大学と卒業生の絆を一層深めていくための展望を、三木学長と松村会長が語り合いました。

共感 多くのご参加をいただけるよう たくさんの取り組みを実施

松村 いよいよ2023年に校友会が10周年を迎えます。通例ですと総会と懇親会という一大行事に力を入れますが、それだけでなく、2022年から2023年の2年間を通して、いくつもの取り組みをしていきたいと考えています。そうすることで、多忙な方や遠方の方にも、何かしら参加していただける機会をつくり、多くの方と交流を深めたい。また、それが大学の創立100周年に向けて、大学と卒業生のつながりをますます活発化させるトリガーになるよう図っていききたいと思っています。

三木 卒業生の皆さんに大学をもっと身近に感じていただきたいですね。先日、他大学の100周年記念行事に出席した際、親子三代の卒業生を表彰していました。本学でも募集してみてもどうでしょうか。

松村 はい、私も存じ上げている方が武蔵工業大学時代から数えて親子三代で卒業されています。しかし、武蔵工業大学と東横学園女子短期大学を統合して東京都市大学ができ、旧大学を卒業された方の中には、自分の母校がなくなってしまったように感じる方もおられるという話もお聞きします。そうした方にもぜひ、東京都市大学の同窓生であると共感していただけるよう、大学に来て想いを語ってもらう機会をつくるのが校友会の使命だと考えています。

協調 学費減免で社会人ドクター募集 卒業生のキャリアアップを支援

三木 近年、大学では、社会人が大学院に戻って博士号を取得する、「社会人ドクター」をもっと増やそうとしているんです。社会人ドクターは、一度仕事を経験した人が、最新の研究動向に触れながら、もっと深い専門知識を身に付け、キャリアアップに生かされます。アメリカ、中国、インドなどでは非常に増えています。博士号を取得していると、研究や開発業務に携わる人だけでなく、営業職でも技術的な交渉事に有利に働きます。日本では学部を卒業後、マスターを経てすぐにドクターというコースがほとんどですが、アメリカでは、一度社会を経験してから大学院に行くケースが多いです。

松村 私も企業で研究部門にいましたが、5・6年勤めると、自分の専



東京都市大学 学長
東京都市大学 校友会 顧問
三木 千壽

門領域が明確になってきて、大学院で学び直したいという気持ちも起きてくるんですね。でも、そのとき企業の支援体制がなかったり、大学とのつながりがなかったりとなると、実現が難しいかもしれません。

三木 現実的には授業料の負担もあります。そこで私は、学長になってから2年目ぐらいに当時の理事長の安達 功さんに掛け合いました。通常ならば、本学の大学院の授業料は国立大学法人の2倍なのですが、国立大学法人も社会人には半額の優遇措置をとっている。うちは75%引きにして初めて勝負ができると。そうしたら、安達理事長が「わかった。90%引きにしよう」と言ってくれたんです。それで今、博士後期課程の授業料は月1万円ほどになっています。

松村 それはもっと宣伝していきたいと思います。それとあわせて、大学でどんな教員がいて、どんな研究ができるのかを、もっと発信していかなければなりません。それこそ協調ですね。

三木 10年程前、日本は科学技術論文の数ではアメリカに次ぐ世界第2位でした。しかし、今は10位ぐらいに落ち込んでいます。科学技術論文の数は10年先の経済軸を示しているんですよ。社会人ドクターを増やし、高い知識と見識と交渉力を持った人物を世の中に送り出していかなければならないと考えています。

共有 卒業生と在生を結び 共に夢を実現するしくみづくり

松村 大学院に限らず、社会人のリカレント教育の場

東京都市大学
校友会 会長
松村 慶一



がもっと増えるといいですね。リカレント教育は大きく3つあると思っています。1つめは趣味・興味・嗜好の醸成のための教養講座、2つめは専門技術のスキルアップ研修。そのための専門教育の指針・提示、3つめはその中間で、専門的な知識や技術を生かした趣味の活動です。例えば、本学の鉄道研究部OBの皆さんは、それぞれ本業の傍ら熱心な活動をされていて、ある意味、鉄道のプロフェッショナルです。そうした“得意技”を講師として披露していただき、校友会だけでなく在生、広く地域の皆さんと共有していただけたら素晴らしいのではないのでしょうか。

三木 卒業生と在生とのコラボレーションでいえば、横浜キャンパスで「ビジネスプランコンテスト」を実施しました。かつての環境情報学部（2013年に環境学部、メディア情報学部へ改組）1期生（1997年

■現在の大学の規模

(2021年12月現在)

卒業生数

約10万2,000名

武蔵高等工科大学創立以来の実人数

在籍学生数

約7,600名

7学部17学科、2研究科8専攻合計人数

■大学の改革と今後の計画

2009年度	・武蔵工業大学（1929年創立）と東横学園女子短期大学（1939年創立）の統合⇒東京都市大学が誕生
2020年度	・建築学科と土木学科の統合⇒建築都市デザイン学部を新設 ・工学部を理工学部、知識工学部を情報工学部に名称変更 ・7学部17学科体制に再編
2022年度	・等々力キャンパスが世田谷キャンパスに転移・統合⇒世田谷・横浜2キャンパス体制に
2024年度	・新棟B棟Ⅱ期完成 ・世田谷キャンパス再整備事業完成（2021～2024年）
2029年度	・創立100周年

入学)の皆さんが発起人となり開催されたもので、学部生や若手研究者の15チーム(18プラン)がエントリーし、書類審査を通過した6チームがプレゼンテーションを競い、本学を卒業した起業家である先輩方に審査をしていただきました。学生のビジネスマインドを実践で醸成する貴重な機会となることを実感し、今後も継続したいと考えています。

松村 本学の卒業生にはベンチャービジネスを立ち上げている方がかなりいらっしゃいます。今日は複合技術の時代で、1人の想い、1つの技術だけでは達成できないことも、スキルを持った人たちが集まることで実現できる。そうした人と人、技術と技術を有機的に結び付ける手助けを校友会が担ってあげたいと考えています。ベンチャー企業立ち上げ支援や科学技術オリンピックなどのしくみをつくって盛り上げていきたいと思っています。

三木 それと、世の中の動きはファンドですね。本学の学生や研究室の技術やビジネスプランに対して、卒業生から投資をしてもらう。投資ですからリターンがあるよう、きっちりと結果を出さなければいけません。

松村 「この指とまれ!」で賛同するプロジェクトに、卒業生に参加してもらうという方法ですね。資金もそうですが、技術でコラボレーションする場合があってもいい。校友会を通して広く卒業生に働きかけることで、大きな力が生まれるはずですよ。

協力 大学の100年先を見据え 一緒に未来を語りたい

三木 これから創立100周年に向けて、大学でもさまざまな取り組みが行われていくわけですが、一番大事なのは、その間に次の100年、本学がどのように変化を遂げるべきかを考えることです。2030年からの100年は、これまでの100年より激動の時代となることは確かです。その中で特色をどう打ち出していくかが課題です。

松村 経済も10年スパンで揺れ動いてきています

が、これからはますます予測が難しい時代になります。そのような時代に、東京都市大学は何を教育の軸に据えていくべきでしょうか?

三木 私がかねがね発言しているのは「STEAM教育」です。STEAMとは、Science(科学)、Technology(技術)、Engineering(ものづくり)、Art(芸術)、Mathematics(数学)の頭文字をとった造語ですね。中でも最も重要な学問は、ScienceとMathematicsです。でも、それだけでは、自分が何のために学んでいるのか見失うこともあります。そこで、TechnologyとEngineeringとArtを組み合わせ、自分たちが社会でどんな活躍ができるか、常にイメージさせながら学生たちを育成していくという基本は変わらないと思います。

松村 長引くコロナ禍で、イベントの実施が不確実な面もありますが、2021年度のホームカミングデーは、オンラインで実施を予定しています。学長にもあいさつをお願いしています。これまで大学に来られなかった地方の方や海外の方にも数多く参加していただくことができ、さらには娯楽的な企画ですが、各キャンパスの最寄り駅から大学までの道のりを、卒業生の皆さんにとって懐かしい店に立ち寄りながら、実況中継をするコンテンツを予定しています。オンラインならではの新たな可能性を感じることであります。これから本格的にはじまる校友会10周年を記念した2年間を、ご一緒につくっていただければと願っております。

【対談日 2021年11月25日】





水澤 亮氏

年齢：60歳（1961年生）

趣味：映画鑑賞

経歴：1984年3月：武蔵工業大学 工学部 電気工学科 卒業

1984年4月：ダイキン工業（株）電子システム事業部 配属

1991年5月：（株）極東商会 入社

2007年6月：同社 代表取締役社長 就任

◎大学時代の思い出

「大学時代の思い出は？」と聞かれて、即、頭に浮かぶのは、「実験レポート地獄」(笑)です。当時は、まだ個人にパソコンが普及していない時代で、毎週、基礎実験に関するレポートを10枚、20枚と手書きで提出するのですが、些細な理由で簡単に再提出となり、どんどん提出すべきレポートがたまり、結構真剣に地獄の日々でした。ただ、社会人になった後、個々の実験内容は全く無意味でしたが、叩きこまれたレポートの書き方に関しては、プレゼンテーション等の場で、かなり役に立った記憶があります。また、下宿をしている四畳半の友人宅に実験班の全員が集まり、度々徹夜でレポートを書き上げたことも、今となっては楽しい思い出です。

◎現在の仕事内容（会社概要等）

自分が代表を務める商社は、昨年創立70周年を迎え、化学品、空調冷凍機器、工事材料等、幅広い商品を扱っています。現在は、プロの設備工事業者の方々へ工事材料や工具を直販する BtoB の店舗展開に力を入れており、直営店を中心に全国55店舗のネットワークとなっています。

◎仕事で心がけていること

草野球でも子供の運動会でも、所属したチームに貢献したいのが人間の本能で、それらに参加しておきながら、わざわざ手を抜く人はいないと思います。自分が活躍し、そして所属チームが勝つことが、最も満足できる結果だと誰もが知っています。基本的には仕事も一緒だと考えており、当社では個々の営業マンにノルマは一切ありません。草野球や運動会で熱くなるのと同じように、楽しく仕事に熱中できる職場環境を作ることが、自分の仕事だと考えています。

◎社会の求める大学像、学生像とは？

昔も今も、在学中の4年間に学んだ知識で、その後の人生の40年間を乗り切るのは、絶対に無理です。よって、在学中に身に付けて欲しいことは、課題解決に向けた「アプローチの仕方」に関する基本やコツです。そして、在学中に蓄積して欲しいことは、一見、過酷なハードルであっても、「結構、何とかなるな」という自信です。今の時代、社会が求めている学生像は、突破力を身に付けたタフな若者だと思います。

◎今後（未来）の大学に求める役割とは？

学生に「知識」と共に、「体験」できる機会を提供して欲しいと思います。現場に出向き、様々な問題に関して、頭ではなく体で感じる事が大切な気がします。現場は地球の裏側の貧困地域でも、最先端のスマート工場でもかまいません。これからの時代は、ともかく未知の課題が山積です。教わった知識の範疇で、要領よく点数を稼ぐ人間よりも、何事にも臆することなく飛び込み、走りながら考える人材こそが必要だと痛感しています。大学には、そういった若者を育てて欲しいと願っています。

卒業生（在学生）へのメッセージ

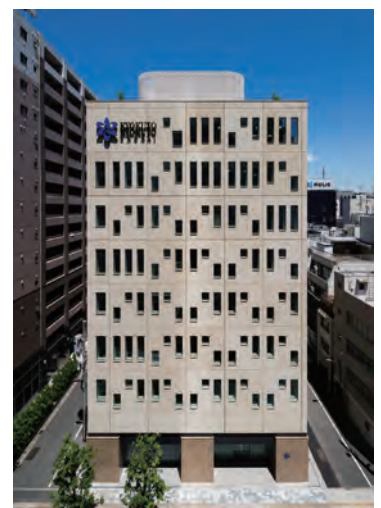
大人が「日本」の未来について語ると、少子高齢化、労働人口減少、低成長、低生産性、借金大国、老老介護…等々、大抵はネガティブな単語ばかりが並びます。しかし、あらためてグローバルな視点で見直すと、我が国は戦後75年超に亘り戦争をしていない貴重な先進国であり、自宅の引出しの中に銃を置いている物騒な人もいなければ、国民の間に人種や宗教に起因する分断も無く、どこでも蛇口をひねれば美味しい水が飲めます。つまり、全国民に平和で清潔な日常が担保されている、世界でも珍しい国と言えます。折角、そんな恵まれた環境の中で社会人になる訳ですから、興味のあることを、とことん追い続けながら、胸を張って人生を歩んでいかないと、絶対にもったいないと思います。



全国展開中の B to B 工事材料直販店舗「KAPAS (カパス)」



空調機室外機



株極東商会ビル



福光 秀子氏

東京都出身

1972（昭和47）年東横学園女子短期大学家政学科食物栄養科卒業。石川支部発足時より副支部長としてご活躍。嫁ぎ先の「福光屋」は日本酒はもちろんのこと、甘酒、化粧品と多岐にわたり商品を開発。数年前の校友会賀詞交歓会の際には「加賀鳶」を提供していただきました。

早いもので東横学園女子短期大学を卒業してから49年もの歳月が流れてしまいました。

私は中学からの入学でしたから、住まいの三軒茶屋からバスに乗り8年の間、等々力まで通学しました。

当時の等々力はまだ畑が多く、学校へ続く坂道を登っていく右側に大きな畑があり、ある日の帰り道、美味しそうな白菜を買って帰り母に笑われたことを思い出します。当時は

のどかでしたね。

短大では食物学科を選択して、部活はフォークソング部に入部。高校より授業時間が多い日々を過ごしながら、部活も楽しみました。毎週数回の調理実習があり、山本恭子助教授の厳しいご指導のもとで、慣れない包丁に四苦八苦致しましたが、今では役に立っております。

私の母は帰宅時間に厳しく、皆に笑われますが門限が18時でしたので、学校の帰りになかなか遊びに行けず、休講があると、友達と等々力溪谷を散策したり、美味しいケーキ屋さんに入ったりと時間を無駄にせず18時の1分前に帰宅するという特技まで身につけました（笑）

卒業後は日本橋にある国分株式会社という食品卸問屋に就職して、同僚であった造り酒屋の息子である主人と縁があり、金沢に嫁いで参りました。私の嫁いだ福光屋は寛永2年（1625年）から現在まで396年続く造り酒屋です。小さいながらも全て純米醸造とし、「黒帯」「加賀鳶」などを製造しています。古い家に嫁ぎ、さぞ大変と皆が心配していましたが、主人、義父母に助けられ、子供達が幼稚園に入る頃には友達も出来ました。石川県は子育てにとっても良い環境だと思います。夏は海や山、冬はスキーやスノーボードとコンパクトですが色々なものが揃っています。子供達はそれぞれ巣立ちましたが、ママ友とは今でも交流が続いています。

2017年2月に東京都市大学校友会石川支部が、発足致しました。高屋支部長に助けられ、準備段階で新美砂会の川辺副会長や衣斐常任幹事にご指導を受け、発足の運びとなりました。

お世話になりました皆さまに大変感謝致しております。お陰様で50数名の参加となりました。この2年は残念ながら新型コロナウイルスの影響で開催出来ませんが、開催されましたら新美砂会会員の多数のご参加をお待ちしております。

一日も早いコロナの終息を、そして東京都市大学校友会のますますの発展を、お祈り致しております。

最後に校友会の皆様、是非金沢に遊びに来てください。美味しいもの盛り沢山です。もちろんお酒も！



短大時代フォークソング部仲間たちと（本人は前列左端）



福光屋「蔵」



酒蔵の水「百年水」



池田 飛鳥氏

学歴
2014年：東京都市大学 環境情報学部 情報メディア学科 卒業
2017年：東京都市大学 環境情報学研究科 修士課程 環境情報学専攻（情報システム領域）修了（環境情報学修士）

職歴
2017～2019年：株式会社日立製作所
2019年～：ソフトバンク株式会社（現職）
2017年～：YHB>IDENBRID Co Founder CDO

◎ご出身、幼少期～中高生時代

静岡県沼津市出身で、4人家族です。父、母、私、妹。こどもの時に熱中してたことは蝶取りと鮎の友釣です。今でも蝶の標本をたまに作ってます。友釣は来年、全国制覇を狙ってます。割と珍しい趣味かつ外での趣味だったので、情報系に興味を持った理由は謎ですね。実は小・中学校は虐められていましたね（苦笑）。先生が偉い、親は偉い、常識、同調圧力...etc。今の教育はどうか分かりませんが、誰しもが素直に思う疑問は日本だと本来持つてはいけない疑問として処理されるじゃないですか。でも気になって聞いていたらいつの間にか虐められてました（笑）。

ずっと変人として生きていましたが、高校時代に初めて土屋先生という恩師に出会いました。（<https://www.youtube.com/watch?v=YuGWYivSFJc>）この人だけが「君はそのまま伸びなさい」と言ってくれたんです。初めて否定しない先生に出会えて、物理の勉強だけでなく、色々な話をさせてもらいました。

◎大学時代～大学院時代

実は他の大学も受かっていたのですが、他の先生は偏差値が高い所に行けとしか言わずに全然話にならなかったの、恩師（土屋先生）に相談しました。「君はこの大学で伸び伸びやった方が良くないじゃない？」って背中を押してくれたので、環境情報学部へ迷わず入学しました。

学部生時代の前半は、入学後、早い段階から事務局の総務課の方が私に目をかけてくれ、ISO事務局という立場でチャンスをいただきました。ISO14001監査のお手伝いや、大学の色々な行事の実行を通じて、自らの力を伸ばせたのは良い経験でした。

学部生時代後半は、藤井教授との出会いが大きかったです。技術者/研究者としてのリテラシーを兎に角上げてもらったのと、ディスカッション能力をめちゃくちゃ鍛えられました。常に10年先を見据えなさいと言われたのが、今でも一番気をつけている部分です。

◎大学院時代～海外インターンシップについて

大学院を選んだ理由は2つです。

①自身が起業をしていて、社会人として自身の力不足を感じたこと。

②藤井先生から、鈴木先生という私の経営の恩師になる方を紹介いただいたこと。

鈴木先生からは、アメ



ルビコンインターナショナルの同僚との仕事終わりのフットサル風景
本人は左から二人目

リカのインターンシップのチャンスをも頂きました。前述した通り、自分の力不足に悩んでいた時期でもあり、飛びつきました。「ルビコンインターナショナル」という会社で、マーケティング関係に従事しましたが、非常に自身の価値観を広げる体験を得られました。会社に残らないかとオファーを受けた時は、とても嬉しかったですね。

◎大学院修了後～就職

自分が一番合わない会社を選びました。アメリカで多様性の重要性を理解し、自分に足りないことは人を信じる力だということを感じさせられました。自分の人間としての可能性を広げるために、自分が合わない会社で成長しようと思い、日立製作所を選択しました。やはり反面組織の壁は厚く、組織内では上手く立ち回れなかったですけど（苦笑）。



ルビコンインターナショナルの仲良いエンジニアチームとの集合写真

◎転職後

日立製作所という会社では、私がやりたい事をやるのが難しいと結論を出し、転職を決意しました。ちょうどその時にソフトバンクでデータを使った事業をする人材が欲しいという話を伺い、入社を決めました。「データの力で世界を変える」を志として、様々な社会課題を解決し、社会を少しでも生きやすい世界に変えていけたらなと思っています。

◎国際化について

海外へは語学が堪能でなくても行ったが良いと思います。マクロな視点で日本という市場は縮退していきます。海外に機会を見出さない限り、なかなか日本だけで生きていくことは難しい時代になりました。

藤井先生にも言われたのですが「少しでも海外の文化の香りを感じてきて欲しい」と送り出してもらい、様々な気づきがありました。日本という国を改めて外から見直す意味でも、在学生には是非経験して欲しいです。

◎ご家族や趣味、将来について

日立製作所時代の同期の妻と二人で暮らしています。日立製作所の研修で、任意で副社長の前でプレゼンテーションをできる機会があり、その際に同じグループになったのが出会いです。

次の3年は、次の2つの目標を掲げています。

①趣味の鮎釣り全国1位にまで昇華し、日本のあゆ文化を世界に広げる準備をする。

②パキスタンに軸を置く自分の会社のサービスを、パキスタン、ひいては中央アジアのサービスにする。

◎都市大生へのメッセージ

大学をうまく活用してください。海外インターンシップを始め、色々なチャンスが転がっています。アクションに尻込みをする人は多いですが、取返しのつかない失敗なんてないので、失敗から学ぶつもりで伸び伸びと全力でチャレンジできる4年間です。この4年で何が出来るかで、今後の100年時代をどう生きられるかが決まります。是非、色々な体験を通じて、深みのある人間になってください。

◆青森支部

副支部長 御手洗 貴代子 (1977国文)

自然災害やコロナウイルスで校友会支部活動も盛ならない状況です。この度、八戸市で活躍されている卒業生を訪ねました。

矢田部 裕子氏 (1968家政)

●経歴

1980年 「詩仙堂」を前任者より業務を継承

2000年 独立

2002年 有限会社「詩仙堂」代表取締役

業務内容は結納専門店

●なぜ水引を？

仕事を始めた頃、水産都市八戸市に大手企業が進出するようになりました。そのため慶事などの引き出物に水引をかけて欲しいとの依頼が多くなり、仕事上学ぶ必要がありました。旧八戸藩(八戸市)は、礼法の一つとしての水引を古くから教えてくださる方がおり、そこで学び、その後も研鑽に励んでおります。

●水引って？

起源は飛鳥時代、遣隋使小野妹子が帰朝した時、隋の答礼使が携えてきた贈り物に航海の無事を祈って紅白の麻紐が結ばれていたことに始まります。名前は水引を作る時に水のりを引くことに由来し、3つの意味があります。①未開封であること②魔除け③紐を引いて結ぶということで人と人を結びつける(諸説あり)

●活動内容を教えてください

八戸市長者公民館で講師を務めて、30年以上になります。水引・お祝や仏事の金封筒の作り方、書き方、作法、水引を使ったしめ飾り、ポチ袋の作り方を園児～高校生、父母会、老人大学で教え八戸市内だけではなく他市でも講習をしています。

八戸市商工会の女性会でも役職として15年以上歴任致しました。これは、主人のご理解なくしては出来ませんでした。

●楽しみはどんなことですか

65歳から主人の指導のもとゴルフを始めました。ピアノも始め、発表会ではショパンの『雨垂れ』を演奏しました。

「年齢に関係なく何事にも挑戦すること」と生き活きと笑顔で話されていました。お話を伺い、元気をたくさん貰って帰ってきました。



水引の講習会。写真左、立っていらっしゃる方が矢田部裕子さん

◆岩手支部

支部長 飯沼 猛 (1967機械)

岩手支部の幹事長である阿部幸樹さん(1984土木 1986修士・土木)が還暦目前にして2020年3月に北海道大学のドクターを取得しました。

阿部さんは、武蔵工業大学を卒業して岩手県庁に入庁し、主に土木系の仕事をして来ており、2011年3



月の東日本大震災の時には、漁港漁村関係の業務に従事していました。それ以降、ずっと、漁港、漁場、漁村、防波堤など岩手県で最も被害の大きかった(被害総額約5千億円)分野の復旧・復興に携わって来たそうです。その際に国の技術的基準や制度の範囲では解決できない課題が数多く有り、国の基準に頼らず、震災の実態を踏まえた研究的な要素も含んだ業務が多くなったことから研究論文を作成する機会が増えたことや、知人からの誘いも有ったことから、2017年4月に北海道大学大学院の社会人コースへ入学し、博士論文を作成したうえで、2020年3月に学位を取得しました。

在校生に対してのアドバイスを求めたら、「技術力を高めて社会に貢献してください」とのことです。又、本人は都市大の恩師である片田先生(元副学長)から頂いた御言葉「大きな目標、たゆまぬ努力」を肝に銘じているそうです。

岩手支部としては2020年の夏に「ドクター阿部を祝う会」を計画しましたが、あいにくのコロナ禍で中止しました。岩手のコロナも、ワクチン接種が進み、終息が見えてきました。2022年度の何処かで、実施できればと期待しています。

◆栃木支部

支部長 斎藤 治秀 (1982土木)

栃木支部では、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2020年度の支部総会並びに関東甲信越地域ブロック会を中止としました。2021年度は新型コロナウイルス感染防止対策を講じて、第44回栃木支部総会をJR宇都宮駅前のホテルに於いて、2021年7月10日(土)にハイブリッド形式により開催しました。コロナ禍での開催となりましたので、参加会員は18名と



総会の様子



ご出席の皆さんと

例年に比べて半数程度でしたが、校友会本部からは、松村会長をはじめ7名の皆様にリモート(ズーム)環境で参加を頂きました。16時から17時の1時間での開催となりましたが、参加会員の近況報告や大学・校友会の情報提供等に加えリモートによる意見交換が活発に行われ、短い時間ではありましたが、大変有意義な総会となりました。例年の総会時には、1時間程度の講演会や2時間程度の懇親会を開催していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止としました。総会時に実施したこれまでの講演会は、栃木支部会員や都市大学の先生が講師となり様々な知識や教養を得ることができるよい機会でしたので、新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、総会時に開催する講演会を今後も継続して実施したいと考えています。

栃木支部の行事としては、2021年6月5日(土)に親睦ゴルフを那須小川ゴルフクラブに於いて6名の参加で実施しました。



親睦ゴルフを那須小川ゴルフクラブにて行いました

◆埼玉支部

顧問 荻原 三七夫 (1949土木)

私は1946年、先の大戦大東亜戦争敗戦終結後に当時の武蔵工業専門学校土木科に初入学いたしました。1949年3月に卒業と同時に埼玉県庁農林部耕地課に奉職いたしました。諸々の経緯がありまして、24年の県庁生活に別れを告げ、埼玉県内総合建設業を営む(株)島村組で15年、小川工業(株)で16年、(株)松永建設で3年、初雁興業(株)で4年、82歳まで働かせていただきました。この間のお仕事には、業界間の通常の幅広い付き合い関係が大変重要な要素が含まれていて、如何に人対人、人間関係の大切さと云うものを大きく悟ったものでした。

その様な経緯の中、埼玉県内でも武蔵工業会埼玉支部設立のお話が出て参り同期生でした埼玉県議会議員の故井田恵夫氏と協議を重ね、1987年に武蔵工業会埼玉支部を設立、支部長に故井田恵夫氏、副支部長に1949建築科卒の故岩堀徳太郎氏と私荻原三七夫も副支部長となり、卒業生各位皆さんの大変なご協力を経て1,500名有余の会員名簿を作成する事が出来ると共に毎年大学より先生、緑土会本部役員さんのご出席ご協力の元支部総会も開催する運びとなり第1回は112名のご出席がりましたが、その後は7~80名程度の出席でして、3年前より育英会の関係により東横学園女子短期大学の卒業生の皆様のご協力を得て大変華やかさが生じると共に、多くの男性皆様も喜ばれる結果となり埼玉支部総会も大変賑しく盛大さを増して参りました。



埼玉支部総会にて

◆川崎支部

支部長 山岸 一雄 (1979機械)

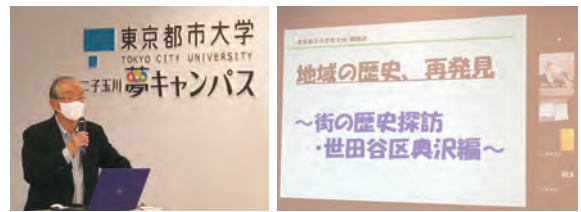
2021年10月30日(土)に川崎支部総会(Zoom形式)を開催し、参加人数は少数でしたが、無事に終了しました。例年は、神奈川三支部(横浜、川崎、神奈川・湘南)合同で横浜キャンパスで開催。総会案内は葉書を主でしたが、2021年はメール(一部SNS)のみでの案内です。総会後のアンケートでは、Zoomが解らないので総会に参加出来ない方も多くいました。



2021年9月28日現在、会員数は3551名でメールアドレス登録者は877名です。パソコンをお持ちでない方、メールアドレスを登録されていない方、メールの扱いに不慣れな方もいらっしゃいますので、メールアドレスの登録やSNS等利用してのご案内、参加の促進が今後の課題となります。多くの会員の皆様のご参加を期待します。

1年半前の企画の「ビデオ配信」を再開し、定例講演会や家族参加親子で遊ぼう!が、いつでも視聴して頂ける様にします。ミステリーツアーは配信済。定例講演会は社会で活躍している卒業生を招き、2022年1月22日(土)は経営卒業生の染野氏。まん延防止のため、対面+ZoomのハイブリッドをZoomとし、一般者、栃木・横浜支部も参加。

4月頃はコンサルタント経営者を予定。他支部との共同開催も企画。毎月校友会オンライン配信の情報誌「川崎支部便り」の製本発行は2022年予定です。



川崎支部第18回講演会

◆神奈川・湘南支部

支部長 海老沼 利光 (1974経営)

「コロナ禍にあっても負けない支部活動」

山田眞久前支部長の後を引き継ぎまして、支部長に就任しました。経営1974年卒の海老沼利光です。どうぞ、よろしくお願ひします。



コロナ禍にあつて支部活動が制約を受ける中、オンラインを活用して以前とほとんど変わらない活動をしています。対面活動ではできない制約があるものこれを補いながら「Zoom」を利用して活動しています。

支部事業計画の抜粋

- ①オンライン役員会の定例開催(2~3か月に1回開催)
- ②オンライン支部総会の開催(2021年度は1月に予定)
- ③新企画イベントの開催「新札発行と鎌倉名所めぐり」のバーチャル散歩
※校友会協賛：校友会10周年記念事業の一環活動
- ④懇親会の開催(オンライン飲み会)

「オンライン活動のメリットを知る」

オンラインを活用し、利点があることに気が付きました。遠方に居住し、業務が忙しい現役の支部役員の方々からは、役員会出席のための移動時間が掛からなく出席し易いとの意見が多く出ました。

コロナ禍後もオンラインの利点を継続しつつ「対面とオンライン」のハイブリッド型で活動していきます。

このZoom活用にあたっては、校友会DX委員会(2021年度新設委員会)の委員長でもあり、当支部の露木副支部長の率先垂範があったことをこの場をお借りして感謝を申し上げます。

Zoom活用によるオンライン支部活動の勧め

コロナ禍にあつて対面活動ができずに活動が低迷及び中断している多くの支部の方々に「Zoom活用によるオンライン支部活動」をお勧めしたいと思います。



オンライン役員会

◆山梨支部

支部長 綿奈部 博史 (1974機械)

再発足いたしました！

山梨支部は、ここ数年間休止状態にありましたが、2019年8月現校友会会長の松村氏の誘いを受け綿奈部、坂下氏を中心に旧幹事であった方々の協力を受け再発足準備委員会が発足。その後、何回かの打合せを持ち、2020年2月22日再発足総会を開催するに至りました。当時、山梨支部在籍者は670名ほどの会員ということでしたが、突然の案内にどれほどの参加者が得られるのか心配していました。結果30名ほどの参加のもと何とか総会という形で開会することができました。総会では原口会長（当時）はじめ校友会役員の方々からの祝辞をいただき、また機械工学科の白木教授には東京都市大学の状況などのご講演を頂くなど盛りだくさんの内容で、参加された方々の交流も深まりました。

さあこれからという時ではありましたが、この時はまさに新型コロナウイルス感染症の感染が広がり始めた矢先であり、ギリギリの時期に再発足したものの、その後の緊急事態宣言等により行動、活動が制限された状態になってしまいました。しかし現在ではリモート会議が常態化するなど、新しい方法での会議体、総会の開催なども行われるようになっています。このような新しい方式の導入も視野に入れながら、これからの活動再開に向け検討していきたいと思っています。

山梨支部はまだまだ小さな集まりですが、これから認知度を広め多くの卒業生が交流できる場にしていきたいと思っています。



2020年2月22日山梨支部再発足総会（於ホテル談露館）

◆富山支部

宮本 千佳司 (1995機械)

1995年に母校を卒業して入社した株式会社宮本工業所は2022年に創業95年を迎える祖父が創業した富山県富山市に本社をおく工業炉メーカーである。当社ではアルミ素材メーカー様を中心に、全国・全世界へ工業炉を納入している。今回開発に成功した「Eco - SMS (エコエスエムエス) 永久磁石式アルミ溶湯攪拌装置」は、アルミスクラップを効率よく再溶解できるカーボンニュートラルの観点でも先進的な装置である。本開発を「第33回素形材産業技術賞」に応募したところ、幸運にも「中小企業庁長官賞」を受賞することができた。受章式は、2017年11月10日、

東京都港区の機械振興会館大ホールで執り行われ、同会館5階機械振興倶楽部にて祝賀パーティーが開催された。受賞企業へは表彰状と記念盾が授与され、月刊誌「素形材12月号」に受賞内容が掲載された。同年3月には「第42回発明大賞（考案功労賞）」を受賞させていただいた。こちらは2017年3月13日、東京都港区の明治記念館曙の間にて表彰式が執り行われた。関係者の皆様には心から感謝申し上げたい。今後も「熱技術と未来環境の追究」を合言葉に、日本の産業界発展、地球環境の保全、豊かな社会づくりに貢献すべく、技術者の育成及び新技術への挑戦に邁進する所存である。



第33回素形材産業技術賞中小企業長官賞受賞記念写真

◆石川支部

打本 幸雄 (1971経営)

高齢になって思う

私は、1971年経営工学部卒の当年73歳です。高齢となりましたが健康状態は良好です。タバコは10年前にキッパリ止めました。飲酒は40代の頃に晩酌を止め、ほどほどの飲酒を心がけています。現在も社長です。趣味は



月並みですがゴルフに読書、さらには乗馬やドライブを楽しんでいます。最近は何句やウクレレなどにも挑戦中です。仕事は、10年程前から開発をしてきたEV関連の自動車部品が忙しく、業績は順調に推移しています。最近読んだ本から幾つかの刺激を受けています。「若い時は自分を鍛え、年をとったら他人のために働け」、「働くとは、傍を楽にすること」、「40代、50代の人たちが希望を持てるような70代、80代になれ」などです。こうしたことから周りの人たちに支えられていることに感謝し、そして少しでも役に立ちたいという思いが強くなっています。昨年春ごろはマスクが店頭からなくなり大騒ぎになりましたが、何とか海外の繋がりでも4万枚ほど入手してお世話になっている市へ寄贈でき喜んで頂きました。また今年に入っては医療従事者の方々の激務に、少しでも感謝の気持ちを表したく3千万円を寄贈しました。60や65歳の定年後は、年金生活に入り余生を過ごすのが普通のようなようです。ただ人生100歳時代とも言われているのに60や65歳で余生とは、チョット違和感がある。

◆鳥取支部

支部長 藤谷 治男 (1968建築)

2021年度鳥取支部総会 7月3日 (土) 白兔会館 (鳥取市) で開催

2020年は新型コロナウイルス感染拡大により行事は全て中止となり、中国・四国地域ブロック会もオンラインになりました。2021年も災害やコロナ禍で鳥取支部総会を開催できないと思っていましたが、会場を予約していたので、対面とリモートで開催することにしました。リモートについては、支部会員で本部 DX 委員会副委員長の中野秀之氏 (1983建築) に操作等をお願いしました。鳥取支部



2021年7月3日 鳥取支部総会 (鳥取市)



本部役員の皆さんはリモートで参加

総会では、卒業生が地元へ帰省しないのは、やむを得ない。メールも個人情報の保護で無理な場合、会報「都市」webで近況の報告や文集を作成すればいいのではないかな。例えば、大学時代の一番印象に残ったことは何ですか？(部活、学園祭、ゼミでの思い出)など。リモートやSNSの同窓会は忙しい。同窓会の旅行は楽しい。コロナ収束後、新学部の校舎や研究の見学、東京都市大学見学、東京ツアーを考えてみてはどうか、など。2021年の支部総会は役所勤務の方が多く、コロナの関係で会食は内部規定で無理な模様。実際の参加者は地元4名、リモート参加は本部の方5名(松村会長、川辺副会長、松浦支部委員長、衣斐副委員長、露木 DX 委員長)、広島支部元支部長の山田氏 (1969土木) 岡山支部長の福島氏 (1968土木) の11名で開催しました。懇親会は少数での開催でした。今回、初めて返事を頂いた方、「校友会があったとは！次回から参加します。」と、年会費を納めてくれた人、嬉しかったです。大学地元受験者7名、合格者0名、残念。次年度の総会は2022年7月2日(土) 皆生温泉 皆生シーサイドホテル(予定)です。

◆香川支部

支部長 尾崎 竹延 (1978経営)

2017年に休眠状態だった香川支部の支部長を自らなり人望のなさ、非力さを顧みず支部会会員の獲得の一助としたいと思って熱意だけで支部長になった次第です。しかし現状では近年香川県からの都市大学への受験者もなく、まして若い卒業生がいるはずもなく高齢となられた卒業生の皆様の



ために努力する所存でしたが、2019年に(株)エネテクノワークスという会社を立ち上げ、同年9月から操業しましたが、2020年1月にコロナ禍による行動自主規制のため営業できず、しばらくの間休業状態になりましたがそれでもその年の夏ごろには再開できると期待したものです。結局のところ最近まで状況はほとんど変化しませんでした。10月に非常事態宣言も解除され、遠方の大手企業への営業活動が再開できるのでないかと期待しております。弊社取扱商品が省エネ関係のため多少の売り上げがあり何とか事業継続してきましたが更なる事業の安定を目指しサステナブルな企業にしたいと思っています。

支部長を続けることは困難ですので、やる気と熱意のある新たな方に支部長をお願いしようと思っておりますが、もし校友会本部で支部長にふさわしい方をご存じであれば是非ご紹介していただければ幸いです。

◆大分支部

幹事長 児島 靖正 (1997機械)

MITのユニフォームとTCUのTシャツが見守る聖火リレー

2021年4月23日午後4時頃、私はトーチを持って聖火中継地、中津市耶馬橋のたもとに立った。コロナ禍で1年延期された聖火リレーの日がついに来たのだ。中年になっても元気に走る姿を、インターネットライブ配信を通じ、私の会社で技能実習を終了帰国したタイ人OB達に見せたいとの志望動機が採用され、県内179人の1人に選ばれた。

コロナ禍で人々の移動規制中、中継地から遠方の大分市在住安部支部長 (1965通信) は残念ながらインターネットライブ配信を見ざるを得なかった。耶馬橋のたもとには、中津市の隣り宇佐市在住の野原副支部長 (1976土木、ホッケー部OB) と田原支部幹事 (1970通信) が立った。それぞれ「走れ児島」、「栄光のゴールへ」と書かれた横断幕を掲げ、野原氏はTCUのTシャツ、田原氏はホッケー部OB会作成MITのTシャツを着て大学をアピールしていた。



横断幕を掲げて



トーチキス

前走者が近づくと観衆はざわめき、トーチキスが交わされ私は走り出した。「大分支部の記念」とカメラを構えた中津市在住豊福支部相談役 (1963通信) に気合が入る。聖なる炎をトーチに灯し、一瞬で目の前を過ぎて行く私の後ろ姿を、横断幕を掲げたまま二人はいつまでも見送ってくださいました。



意気揚々

◆米国支部

支部長 服部 健一（1966機械）
米国弁護士

発足にむけて

人生はつくづく何が起きるか分からないものだと考える今日この頃である。兎に角、私が武蔵工大の学生の頃、米国インターンシップや、アメリカ支部を立ち上げることなどは夢の中の夢という時代だったのだ。



1966年に武蔵工大機械科を卒業すると通産省特許庁へ就職したが、特許庁審査の仕事よりもテニスが好きで自分もプロになれないかと必死に取り組んで官庁ではナンバー1になったが関東社会人ではナンバー3までだった。

特許庁で17年間働いたが、その間、大臣官房企画室という通産省のビジョンを作る室へ出向し、池口小太郎（ペンネーム堺屋太一）、仲井眞弘多（後の沖縄県知事）等々のそうそうたる人物達と働き、1973年の第一次石油危機の時は国家危機の様相があったため、我々通産官僚が田中角栄首相と中曽根通産大臣の直属で働き、真夜中に首相官邸まで行って対策案を田中総理と議論し、彼の英知に触れたことがある。

そして政府留学でジョージ・ワシントン大学で1年間勉強したが、テニスでアパートのナンバー1になり、アメリカ人達にもテニスを教え、そのお陰で英語も相当上達したと言える。

1983年に39歳になった時に、人生の半分まで来た、本当の夢はアメリカ、テニス、そして特許の総合ビジネスの

はずだと閃き、特許庁を退職してワシントン DCにある法律事務所へ転職した。米国法律事務所働くうちに、夜学のロースクールに通い始め4年間で卒業し、1990年にバーイグザムに合格し、日本人弁護士、そして通産省OBとしても初めての米国特許弁護士になった。

それから色々な理由があって、2003年にウエスタマン・服部・ダニエルズ・エイドリアン法律事務所（WHDA事務所）を立ち上げて今日にいたっている。WHDA事務所はホワイトハウスから徒歩で15分位のところにあったがセキュリティの不安から2年前にバージニア州のタイソン市へ引っ越した。

そして、やっと落ち着いたと感じていたら今度はコロナ問題が勃発した。そのためほとんどはオンライン業務となったが、不便さはあるものの、コンピュータ通信で世界の拠点と同時に仕事やセミナーが出来るのでかえって効率やカバー率は上っている面もある。言い換えるとこれまでの米国市場だけのビジネスが、世界市場のオンラインビジネスへと発展しつつあるのである。勿論その根本的理由はアメリカが、そして世界が日本の産業技術・特許技術を必要としているからでもある。

こうした日本の国際的発展から東京都市大の学習活動も国際的になっており、我が事務所も5年位前から毎年夏に4人の学生たちをインターンとして受け入れて来ている。米国や他の国でのインターンシップのために東京都市大の海外インターンシップは文部科学大臣賞を受賞したということは誠に嬉しいニュースである。そういう背景から米国支部を立ち上げることに現在米国各地に散在する都市大卒業生約50名とコンタクトを取っている。とにかく出来るだけ多くの卒業生と共に、近い内に米国支部を立ち上げ、コロナが収束したら第一回会合を開くことを楽しみにしている今日この頃である。

職場支部だより

◆横浜市役所支部

入庁者確保プロジェクトリーダー
橋本 健太郎（2006都市）

横浜市役所支部は、1962年度結成、2022年で創立60年を迎えようとしています。発足当初はわずか数名の会員であったものが、現在は、現役会員140名、賛助会員60名、合わせて約200名を数えるまでに至り、職場支部の中でも有数の規模を誇る組織となっています。これは、多くの諸先輩方が行ってきた「入庁者確保プロジェクト」の功績によるものです。

2006年、採用者数や職員数の減少に伴い、約10年間新採用の学生を迎えていなかったことに危機感を覚え、支部内にプロジェクトを発足させました。「入庁者確保プロジェクト」として、支部としての取り組みとして、大学・学生への積極的なアプローチを開始したところ、初年度から結果を出すことに成功（10年ぶりに2名入庁）。当初は数名でプロジェクトを行っていましたが、現在は、約15名で組織的な体制を構築しており、模擬面接をはじめ、エントリーシートや論文の添削など、支援方法も多岐に渡ります。その結果、プロジェクト開始より入庁した職員は、

約100名と現役会員の7割超を占めるにいたっています。

コロナ禍であることから、学生との接触も限られている状況ですが、今後も、「入庁者確保プロジェクト」発足当時のメンバーであった新保康裕会長（1989土木）の旗振りのもと、プロジェクトを推進し、多くの学生に「横浜市で働く魅力」を発信することで、職員採用につなげていきます。



写真（敬称略）、枠外左より、塚本裕朗、柳田剣太
後列左より、佐野瑠星、松浦和司、諫山勇希、稲垣翔也、今村宗一郎、大野木隆介、鈴木涼真
前列左より、橋本健太郎、小野達也、武田行斗、桃井祐美、鈴木里佳、遊佐夏美

◆川崎市役所支部

西澤 一希 (2016都市)

川崎市役所支部の会員数は2021年10月現在82名であり、2020年2月にクルーズ・クルーズ YOKOHAMA にて2019年度の総会を開催し、勝又先生、丸山先生にご出席していただきました。入庁以来、毎年参加しておりますが、川崎市役所支部会員の結束の強さをとても強く感じ、その一員であることに誇らしい気持ちになりました。また、局を越えて先輩方のお話が聞ける貴重な機会だと感じております。2020年度および2021年度総会については、コロナ渦の影響もあり書面開催となっておりますが、2022年度の開催を目指し活動しております。

私自身は、川崎市役所に入庁してから、早いもので6年が経ちました。私は入庁後、宮前区役所道路公園センターに配属となりました。道路や側溝、区画線等の道路構造物の設計・維持管理をしておりました。道路という非常に多くの人々が利用する空間ということもあり、他企業や地域住民の方々との調整も多く、苦勞をすることがありました。そのような中でも業務面や精神面で川崎市役所支部会員の方々に支えられてきました。

今は道路管理者として働いた経験を活かし、上下水道局第2配水工事事務所という水道管の整備をする部署に所属しており、市民に安全な水道を届けることを第一に、川崎市のまちがどうしたらより良くなるか考えながら仕事をしております。現在の部署においても諸先輩方の助力を受けながらではありますが、やりがいを感じながら業務を行っております。

今後も、川崎市役所支部総会や年間行事に携わり、日々業務を行っていく中で、改めて諸先輩方が築き上げてきたモノの重みを感じ、その仲間であると実感しながら今後川崎市に入庁する後輩たちにも誇れるように仕事に臨みたいと思います。



2019 (R1) 年度支部総会集合写真

◆鹿島柏会支部

水島 峻 (2018建築)

2018年に建築学科を卒業後、鹿島建設に入社、現在は横浜支店でみなとみらいの大規模複合施設の現場で若手監督として活躍中の水島峻(みずしましゅん)氏に業務内容や仕事のやりがいについて話を伺いました。【聞き手：鹿島柏会事務局 齋藤 和也 (2001建築)】



◎現在の職務内容について教えてください。

躯体・外装工事を担当し、工程管理・品質管理・安全管理・原価管理をしています。担当工種に限らず大規模現場ならではの多くの工事を間近で見て日々勉強しています。

◎現場監督のどのようなところにやりがいを感じますか。

一緒に現場に携わった方々(社員、協力会社の方、施主の方)

に感謝の言葉を貰えた時が一番やりがいを感じます。また、自分の計画したことが目に見えて分かる職種ですので、計画通りに形となって実現したときの達成感は計り知れません。

◎休日の過ごし方について教えてください。

ゴルフ、温泉旅行、映画鑑賞などの趣味を楽しんでいます。今年は1級建築士の勉強をすることが多かったです。今年こそ合格していると良いのですが…。

◎施工管理を志す後輩へ一言。

現場に携わる多くの方々との出会いがあり、関わりを持てる職種です。1つ1つの出会いを大切に楽しめる人、一緒に頑張りたいと思います！

◆協和エクシオ柏会支部

坂口 徹 (1999土木)

2017年に機械工学科を卒業後、通信設備事業や電線類地中化などの防災に強い街づくり事業、脱炭素を目指した再エネ事業などを手掛けるエクシオグループ(株)(旧 協和エクシオ)に入社、期待の若手として活躍中の入社5年目 土木事業本部エンジニアリング部門 磯田聖太(いそだしょうた)さんに業務内容や将来の目標などについてお話を伺いました。

■今までどのような仕事に携わってきましたか？

2018年に千葉県船橋市の浸水被害を軽減するため、推進工法による管径Φ2200mm 雨水管の布設トンネル工事に従事しておりました。本工事では東葉高速鉄道との超近接施工や国内最長距離となる「950m」という高難度の施工現場を経験しました。また、2020年には北海道室蘭市において経年劣化した高さ60mの鉄塔修繕工事に従事し、自身では初となる現場代理人を経験しました。

■その中でも印象深かった工事を理由含め教えてください。

鉄塔修繕工事が印象深い工事の一つです。本工事では高さ60mの高所作業や低気温下での塗装といった厳しい環境下での施工となり、安全及び品質の確保に大変苦勞しました。ですが、施工完了後に遠くから眺めた鉄塔はすぐに目に留まるほど綺麗な仕上がりでとても達成感がありました。

■ご自身が業務を行う上で大切にしていることは何ですか。

どのような工事でも地域住民の方々のご理解とご協力に支えられていますので地域住民の方々とのコミュニケーションや第三者へ配慮した施工を大切にしています。

■将来にむけての目標をお聞かせください！！

近年全国各地で自然災害が頻発し、甚大な被害をもたらしているため、自然災害に強い社会インフラの構築を促進し、人々の快適な暮らしに貢献できればと思います。



修繕した通信鉄塔



トンネル掘削機内部

◆理工学部

理工学部長 岩尾 徹

新しい教育への挑戦

2020年度からのコロナ禍により、オンラインやハイブリッドの授業を行ってきましたが、2021年第4Qからは対面授業に切り替えることができました。この間、学生、保護者、校友会、教職員の皆様から御協力を頂き、教育研究を止めないという強い意思の下、学生の学びの充実、教育の質の向上、教育改善を進めることができました。感謝申し上げます。



2020年度、文部科学省「知識集約型社会を支える人材育成事業」に、本学提案のゲームチェンジ時代の製造業を切り拓く「ひらめき・こと・もの・ひと」づくりプログラムが採択され、2021年度4月から、機械、機械システム、電気電子通信の3学科より授業が開始されました(2023年度に理工学部展開)。幅広い教養と深い専門性を両立させる学びにより、価値を創造できる次世代の「社会変革のリーダー」を育成していきます。

当学部では、「理論と実践」という教育理念の下、「探究する都市大」をスローガンに、すべての学びを統合しながら、問いを生み出し仮説を立て、論理的な思考力により課題を解決できる学生を育てていきます。そして、伝統校である強みを活かしながら、新しい挑戦をしています。引き続き、ご指導、ご支援をよろしく申し上げます。

◆建築都市デザイン学部

建築都市デザイン学部長 末政 直晃

建築都市デザイン学部長の末政です。2021年4月に前任の勝又英明建築学科教授(現名誉教授)から大任を引き継ぎました。卒業生、修了生の皆様、ご卒業おめでとうございます。皆さんは、2020年3月からおよそ2ヶ年もの長い期間をコロナ禍で過ごすことになり、青春を謳歌するにはさぞかし窮屈であったことだろうと推察します。



20世紀から21世紀にかけて、コンピューターやIT、医療、交通など、様々な技術の進歩があつて、地球が狭く感じられるようになってきました。一方で、この進歩が地球暦から見るとあまりにも急激であったため、地球が恒常的ではなくなりました。ウィルスも地球温暖化も当然の帰着なのかもしれません。21世紀を生き抜くには、地球視点と変化への対応力が必要であると考えています。

この2年間、我々は何気ない日常がとても貴重であることを痛感しました。過ぎ去った時間を取り戻すことは困難ですが、心がけ次第では実体以上の充実した時間を過ごすことも可能です。皆さんにはまだまだ多くの時間があります。どうか実りある毎日を一步一步踏みしめて進んでほしいと、心より願っています。

◆情報工学部

情報工学部長 横山 孝典

2021年度より情報工学部長を拝命いたしました。情報工学部は情報科学科と知能情報工学科の2学科より構成されています。前身の知識工学部の時代より「知の創造」を担う人材の養成を目的にしてきましたが、情報工学部はそれを引き継ぎ、サイバー空間とフィジカル空間の融合を目指す Society5.0の実現を担う技術者の育成を狙いとしています。



2020年度の情報工学部のスタートと同時に、世界はCOVID-19によるパンデミックに襲われました。社会活動は停滞し産業界も大打撃を受けるのではないかと強く危惧しましたが、大きな痛手を被った業界も少なくないものの、IT技術の進展のおかげで比較的速やかに対応できた業界も多いように思えます。パンデミックが収束しても元の世界には戻らないとよく言われますが、情報技術をさらに高めて新しい世界を構築できればと考えます。

情報工学部の2学科は武蔵工業大学時代の経営工学科と電子情報工学科がルーツであり、何度か学科名称は変わっておりますが、その伝統は引き継いでおり、今後も時代を牽引する技術者を育成していきます。引き続き校友会の皆様のご指導ご支援をお願いいたします。

◆環境学部

環境学部長 史 中超

環境学部は、その前身となる環境情報学部から、「情報」に関する専門性を基盤としつつ、「環境」にさらに特化し持続可能な社会を実現することを目標として、2013年に「環境創生学科」と「環境マネジメント学科」の2学科の構成で設立されました。その後、社会のニーズに合わせて、2020年より、「環境マネジメント学科」の名称を「環境経営システム学科」に変更しました。



環境学部は、「グローバルな視野のもと、地域から地球規模に及ぶ環境問題を科学的に捉え、自然環境と都市環境を調和させることで持続可能な未来社会を創造し、政策科学に立脚した経済システムを環境調和型に転換することによって、カーボンニュートラルの実現、ひいては循環型で持続可能な社会の構築に貢献できる人材の養成」を目指しております。また、国連が提唱する「持続可能な開発目標(SDGs)」の実現に向けて、気候変動をはじめ、自然環境の保全・復元・創造、資源・エネルギー効率、都市・住環境システム、経済・産業システム、政策システム等について、私たちは研究し実践をしています。校友会の皆様には、今後ともご指導のほどよろしくお願い致します。

◆メディア情報学部

メディア情報学部長 岩野 公司

2021年4月にメディア情報学部長を拝命いたしました岩野と申します。メディア情報学部は2013年4月に前身である環境情報学部を改組する形で誕生し、約9年が経過したところです。この間、IoT、ビッグデータ解析、人工知能（AI）など、多くの情報技術が目覚ましく発展し、人間社会の構造も変化し続けてきました。



2019年から続くコロナ禍は、オンライン会議や遠隔授業の導入、電子マネーの積極的な活用など、我々の生活様式や情報環境をさらに大きく変化させました。今後も、「それまでに予想できなかった急速な変化」が訪れることでしょう。そのような未来では、未知の情報環境に対応し、状況を正しく理解した上で、新しい情報技術や社会的な仕組みを生み出す人材が重要になります。コロナ禍を通して、「情報」「コミュニケーション」「メディア」の重要性も改めて認識され、メディア情報学部に対する期待も益々高まっています。

「情報環境の未来を拓く」人材の育成を目指し、学部の教育力・国際力・研究力の強化に取り組んでいく所存です。引き続き、皆様からのご指導、ご支援をいただきたく、何卒よろしく願いいたします。

◆都市生活学部

都市生活学部長 坂井 文

都市生活学部は、新しい発想で創る都市をテーマにした学際的な社会科学系の学部として、2009年4月に開設されました。以来、魅力的で持続可能な都市生活の創造のため、生活者のニーズを構想・企画へと描き上げるための事業推進、管理運営を担える実践力ある



人材を育成してきました。with コロナの時代においては人を中心にした市民目線のまちづくりが目指されており、こうした人材の育成がますます求められています。

また、現在、世界の人口の55%が都市に居住し、2050年には、アジアやアフリカを中心にその割合は68%まで増加することが見込まれています。国際的に活躍する人材を育成するために、2020年には国際都市経営コースと都市生活創造コースを創設しました。これまで力を入れてきたTAP（東京都市大学オーストラリアプログラム）や海外インターシップに加えて、国際ワークショップなどの多様な機会を提供していきます。

多文化共生社会に対応する力を身につけ、また地域連携によるフィールドワークや企業との共同研究を通して社会体験を深めた「新しい都市生活の創造者」を育ててまいります。引き続きのご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしく願いいたします。

◆人間科学部

人間科学部長 早坂 信哉

この度、2021年4月より人間科学部学部長を拝命いたしました早坂信哉でございます。任期満了に伴い、前任の井戸ゆかり教授より引き継ぐこととなりました。どうぞ、よろしく願い申し上げます。



私自身はこれまで医療系大学での勤務が主でしたが、縁あって6年前に本学に着任したばかりの新参者でございます。何年か前に校友会地方会へお邪魔した際、東横時代の卒業生の大先輩方が各地域でご活躍されている姿を拝見しましたが、本学部が現在あるのも、こうした先輩方のご活躍の礎があると思うと学部長を拝命して身が引き締まる思いでいっぱいです。

本学部はメインキャンパスから離れた等々力キャンパスにあり、かつ数少ない文系学部ということもあって、様々な研究の考え方や、多くの学生が保育士・幼稚園教諭の資格を取得するという特殊な学習環境の違いが他学部の方に理解されにくいということがあったかもしれません。私自身は理系出身ですので、本学部の役割や良さを分かりやすく翻訳して他学部の皆様に上手にお伝えし、橋渡しをする役割を担いたいと考えています。卒業生の皆様からはこれまでと変わらぬご指導をいただきたくよろしく願いいたします。

◆共通教育部

共通教育部長 山口 勝己

同窓生の皆様には益々ご清栄のことと存じます。2021年度より新保良明先生の後を受けて共通教育部長に就任いたしました。情報教育部門に所属しており、自然科学系主任を務めると共に、情報基盤センター所長を兼務してきました。この経験を生かして共通教育部のさらなる発展に努める所存です。



共通教育部は、人文・社会科学系（人文・社会、体育、教職）、自然科学系（数学、情報、物理、化学・生物・地学）、外国語共通教育センターという3組織から構成されています。広範囲にわたる本学の共通教育を担う組織ですが、それぞれの組織・部門が独自性を保ちながら、各教員が教育研究に専念できるような環境を整えるように努力しております。

2022年度から2キャンパスになりますが、教養科目についてはコロナ禍で定着したオンライン授業を発展させ、どちらのキャンパスの学生も自由に履修できるようにし、興味に応じて選択できる範囲を広げることを進めていきたいと考えております。

今後、変化の激しい時代において、基礎となる学力と幅広い教養は益々重要になります。学部だけでなく共通教育部の活動にもご興味、ご関心をお持ちいただければ幸いです。

東京都市大学等々力キャンパスの変遷

2022年春に、東京都市大学 等々力キャンパスは世田谷キャンパスに統合となります。

今号では、東横学園女子短期大学から東京都市大学 等々力キャンパスとなり、今回統合となるまでの変遷を紐解いていきます。

今は亡き五島慶太翁は、他の事業にならび、早くより女子教育の重要性を掲げられ注力なさいました。このことは、当時の玉川等々力三丁目の地に1939（昭和14）年、東横商業女学校を開学し、1940（昭和15）年東横女子商業高校と改称（修業4年）の開校式のご祝辞「時勢は如何なる女子を要求するか」のお言葉からも伺い知ることができます。

1956（昭和31）年4月東横学園女子短期大学開学。第1期入学生57名。入学生と共に慶太翁が写った写真が残っております。

住宅街の一角に校舎が作られ、各校舎が離れていたことは、大学としては珍しかったのではないのでしょうか。公道をブックバンドを持った女学生が闊歩していました。

旧東横学園女子短期大学開学後、大学敷地に隣接した寮も作られました。現在は我が校に限らず、地元大学へ進学する学生が多いと聞きます。しかし当時は開学当初より寮があることで親御さんの安心も得られ、地方からの入学生が多かったです。返還前の沖縄からも、多くの学生がパスポートを持って入学したと聞いております。

家政学科開学後10年目の1966（昭和41）年に文科校舎が竣工され国語国文学科・英語英文学科が開設いたしました。文科校舎のシンボルとなる入り口の階段は、四季折々に花が飾られ、「花階段」と呼ばれました。短大の象徴であり、華やかな女子校そのものでした。学生時代と言えばあの階段を懐かしく思い出す卒業生も多いことと思います。

1979（昭和54）年、家政学科第2校舎が完成いたしました。工事中、東横学園高等学校の校舎を高校生と短大生が一緒に使ったのは懐かしい思い出でしょう。

1984（昭和59）年本館（3号館）が竣工され現在に至っております。

学科変遷が幾度かなされ、言語コミュニケーション学科、生活学科を経て、ライフデザイン学科・保育学科が東横学園女子短期大学の最後の学科となりました。

2009（平成21）年、東横学園女子短期大学は閉学となり、その一年後2010（平成22）年に東京都市大学 等々力キャンパスとして、都市生活学部・人間科学部の校舎として再出発いたしました。男子学生の受け入れ体制として第一になされたことは、男子用洗面所を作ることでした。女子短大だった学び舎に男子学生が入学し、今まで以上に活気あふれた学園祭が行われていました。また2014（平成26）年からは等々力キャンパスにてホームカミングデーが行われ、旧東横学園女子短期大学・東京都市大学の卒業生が恩師・友人たちとの交流を深めることができました。



1955（昭和30）年短期大学ならびに講堂竣工



1956（昭和31）年4月第一回開学式及び入学式
五島慶太翁列席（最前列右から5人目）



1966（昭和41）年文科校舎竣工



文科校舎のシンボル「花階段」

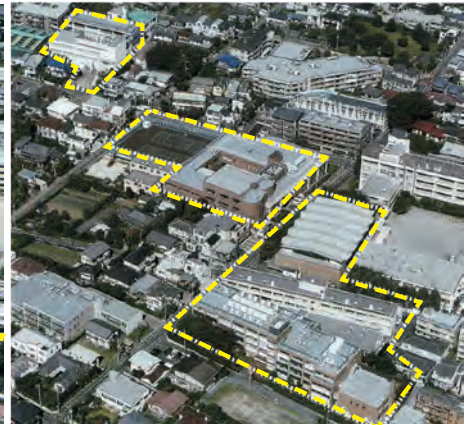
こうして永きに渡り、等々力の学び舎から旧東横学園女子短期大学・東京都市大学を合わせ2万人を超える学生が巣立って行きました。この2万人の卒業生は今後も等々力校舎を学生生活の思い出とともに記憶にとどめ、あの駅からの坂道を忘れることなく人生を歩むことでしょう。

等々力キャンパスにありました「校友会分室（兼新美砂会・等々力会事務所）」は、今回の統合に伴い閉鎖されることとなりましたが今後は、世田谷キャンパス内「校友会事務局」にて引続き対応いたしますのでお気軽にお立ち寄りください。

1979（昭和54）年撮影



2009（平成21）年撮影



1984（昭和59）年本館が完成し現在に至る（2009（平成21）年航空写真）



2019（平成31）年活気あふれる学園祭



2019（平成31）年ホームカミングデーに集う同窓生

参考資料：一部は東横学園女子短期大学 三十年史・卒業アルバム

東横学園記念碑

東横学園は、東急グループの創設者であり、学校法人五島育英会の初代理事長である故五島慶太翁が女子教育の重要性を鑑み、昭和14年、ここ等々力の地に創立した東横商業女学校にその端を発し、その翌年、東横女子商業学校と改称した後、戦後の学制改革に伴い、昭和23年東横学園高等学校となった。

これを基盤として昭和31年東横学園女子短期大学が発足し、研究と女子教育の伸展に寄与した。

平成21年武蔵工業大学と東横学園女子短期大学は、発展的統合により東京都市大学に改称し、すべての設置学校群を東京都市大学の名の下に統一した。

この碑は、東横学園創立の往時を偲び建立したものである。

平成28年6月1日

学校法人五島育英会
東京都市大学



2016（平成28）年6月1日講堂南側に記念碑建立

キャンパス統合後も同じ場所に記念碑は残りますので、お近くにお越しの際はご覧ください。

■機械工学科

主任教授 楨 徹雄

10月に複数教室を使用して三蜜を避けた形で対面開催された大学と保護者との連絡会には、100名を超える保護者の皆様が世田谷キャンパスに来校され、保護者と学科教員が直接コミュニケーションをとることができました。主に、コロナ禍における大学生活や就職活動に関する情報共有に加えて、保護者とクラス担任で行われた個別面談では学生一人一人の学修や進路状況について共有がなされ、相互理解を深める貴重な機会となりました。

コロナ禍に伴い、昨年度に引き続きオンラインでのオープンキャンパス開催となりました。体験授業「自動運転入門」の他、女子学生による座談会形式の「機械工学のススメ」を実施し、都市大機械工学科に進学した理由等、現役学生の声を直接高校生へ配信しました。参加者は100名を超え、対面での実施よりも盛況な結果となりました。

就職の状況としては9月時点の内々定は学部生で約70%、院生が90%となります。コロナ禍により厳しくなっておりますが、その要因はオンラインでの説明会および面接に充分対応しきれないことと登学が制限されているために研究室での学生間の情報共有が不足していることが大きいようです。

■電気電子通信工学科

主任教授 野平 博司

2021年4月に電気電子通信工学科3期生である新入生を迎えました。2020年度と同様にコロナ禍ということで、フレッシュャーズキャンプは1泊2日の形式ではなく、教室で2日間の形式で、教務ガイダンス、友達作り、グループ討議「Youは何しに都市大へ」などを行い、新学期がスタートしました。前期は、オンラインと対面を同時に行うハイブリッド形式でスタートしましたが、コロナ感染の拡大で、オンライン授業のみに戻ってしまいましたが、後学期の後半(4Q)からは、原則対面授業となり、大学本来の授業に戻つつあります。学生実験も写真のように対面で行っています。どのような授業形式においても、前年度の経験を活かし学生の理解度や満足度の上がる授業を展開しています。

学科のニュースとしては、文科省に採択された「ひらめき・こと・もの・ひと」づくりプログラムがまず本学科でスタートしました。(https://hirameki.tcu.ac.jp/program/curriculum/) このプログラムは、これから理工学部、さらには全学に展開される予定です。最後に、2021年度の就職状況は、100%内定です。これからも100%を目指して教職員一同学生指導を工夫して行きます。学科の最新情報は、学科のブログ <http://grp.tcu.ac.jp/eece/> をご覧ください。



■機械システム工学科

主任教授 宮坂 明宏

校友会皆さまの変わらぬ暖かいご支援にこの場を借りて感謝申し上げます。

機械システム工学科では、2021年3月に第21期生111名が卒業、機械工学システム専攻修士28名が修了し、4月に学部新入生102名、大学院30名が入学しました。少子化の現状においても機械システム工学科の入学希望者に関しては落ち込むこともなく順調な状況と思われます。教員では、ロボティクスライフサポート研究室に藪井将太准教授が新たに着任されました。

2021年度のフレッシュャーズキャンプはコロナウィルスの感染拡大より、宿泊を取りやめて感染予防を行いながら、2日間で初日はお台場にあるJASSO施設での学科の集い(教務ガイダンスや紙飛行機作り)を実施し、その後未来科学館での見学を実施しました。さらに2日目では各自で製作した紙飛行機を持ち寄り、パシフィコ横浜にある会場にて飛行距離を競い高得点の学生には表彰を行いました。これらの活動により新入生の間で親睦が深まったと感じております。授業では昨年度の第3クオーターと同様に感染対策を十分に実施した上で「ハイブリッド型授業」として対面授業とオンライン授業を実施しました。しかし、4月25日から6月20日、さらに7月12日から9月30日まで東京へ緊急事態宣言が発出され、その期間はオンラインでの授業となりました。遠隔授業など本来の大学活動と異なった自粛生活が学生への精神的な負担とならないように今後とも配慮して行く所存でございます。コロナ禍で活動も制限させる状況ではありますが、学科設立時の教育理念を忘れず優秀な人材を世に輩出して行きたいと思っておりますので、今後ともよろしくご支援のほどお願い申し上げます。



飛行機大会



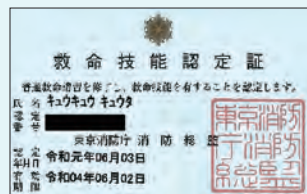
教務ガイダンス

■医用工学科

主任教授 和多田 雅哉(1984電気)

2007年に生体医工学科として開設、2013年に現在の医用工学科に名称変更され、2021年で学科創設15年目となります。この間に多くの卒業生が、新しい医用機器の設計開発などの境界領域の研究者や技術者として旅立っていきました。現在の研究室構成は、臨床器械工学研究室(森教授、和多田)、生体計測工学研究室(京相教授、島谷准教授)、医用電子工学研究室(桐生教授)、医用材料工学研究室(桃沢准教授)、細胞・組織工学研究室(小林講師)の5研究室体制となります。(その他、実験・実習室の管理運営を担う実習管理室(柴田技士)があります。)

2020年からのコロナウィルスの影響で、教育や研究など多くの分野で深刻な影響が続いております。このような状況下で、2021年の新入生フレッシュャーズキャンプは学内研修のみの実施となりましたが、感染拡大防止策を最大限にとりながら「対面」で行なうことができました。医用工学科では例年実施している「普通救命講習」を新入生全員に受講してもらいました。講師の先生による「救命」の講義に続き、ダミー人形による心肺蘇生法およびAEDを用いた除細動を実践体験しました。受講者全員は「救命技能認定書」(写真)を受け取り、無事に研修は修了しました。今後も、新入生には本講習を受講してもらう予定です。



「普通救命講習 救命技能認定書」(公益財団法人東京防災救急協会HPより)

ここ数年の学生の傾向として女子学生の増加が挙げられます。現在、1年生は約35%、2年生は約25%、3年生では約44%が女子学生であり、機電系エンジニアリング職への関心が高まっていることを示していると考えられます。境界領域である「医用工学」分野への志望に対して、学科の「指導体制」「教育」「研究活動」を更に強化していきたいと思っております。

■応用化学科

主任教授 高橋 政志

2021年度、本学科は「応用化学科」へと名称を変更して、都市大唯一の化学系学科として新たな一歩を踏み出すこととなりました。1997年の学科立ち上げ以来、エネルギー基礎工学科から環境エネルギー工学科、エネルギー化学科へと受け継がれてきた実績を基に、教育・研究をさらに深化・発展させて参ります。

教員の異動に関しては、3月に武哲夫先生と坂井秀敏先生が退職されたことを報告いたします。武先生は2009年の着任以来、12年間にわたって学科の化学工学分野を支えられ、エネルギー化学専攻では長らく主任教授を務められました。坂井先生は2016年から5年間、教育講師として主に学科の低学年教育でご尽力いただきました。一方、4月には秀島翔先生と大野哲也先生がそれぞれ准教授と教育講師として着任され、学科教員が少しだけ若返りました。新しいメンバーを迎えて、これからの学科の研究・教育の広がりや充実が期待されます。

2021年度、学科の新入生は76名（内24名は女子）でした。2020年度からのコロナ禍の影響で、フレッシューズ・キャンプは学内で半日の日程に短縮され、授業も対面での実施がままなりません。このように、まだまだ我慢の時期が続いておりますが、執筆時点（11月中旬）では感染状況が落ち着いてきたことから、少しずつ以前のキャンパスライフを取り戻しつつあります。まだ先の状況は見通せませんが、引き続き教育・研究活動の維持と学生の安全確保の両立に努めてまいります。

学科の名称は変わりましたが、校友会の皆さまには今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



学科別入学式（上）とフレッシューズ・キャンプ（下）の実施風景

■原子力安全工学科

主任教授 鈴木 徹

原子力安全工学科では2021年度に48名の新入生を迎えました。2020年度より猛威を振るい続ける新型コロナの影響により、恒例のフレッシューズ・キャンプ（例年1泊2日）は2021年度も開催できませんでしたが、その代わりに世田谷キャンパス3号館の大教室に新入生を集め、閃源会による大学紹介クイズや学科教員による研究室紹介を通して学生間の交流や学習意欲の向上を図り、スムーズな大学生活のスタートに繋がりました。新型コロナの影響で大学での授業形態は対面授業が主体になったりオンラインが主体になったりと目まぐるしく変化しましたが、緊急事態宣言が明けてからは落ち着きを取り戻しつつあります。

また、世田谷キャンパスでは敷地の約1/3に相当する建物のリニューアルが進められており、卒業生の皆様が見慣れていた10号館前のテニスコートには現在、着々と新たな建物が組み上げられています。原子力安全工学科はこの建物の最上階（5階）に移転する予定です。数年後の「都市大創立100周年」に向けて当学科も新たなフェーズに突入する準備が進められています。卒業生の皆様が一層リニューアルを遂げた原子力安全工学科にお越しいただくこと、職員一同、楽しみにしております。今後も優秀な人材を社会に送り出すべく、積極的な活動を続けていきますので、ご支援・ご指導の程、宜しくお祈り致します。



世田谷キャンパスB地区における新棟建設の現場

■原子力研究所

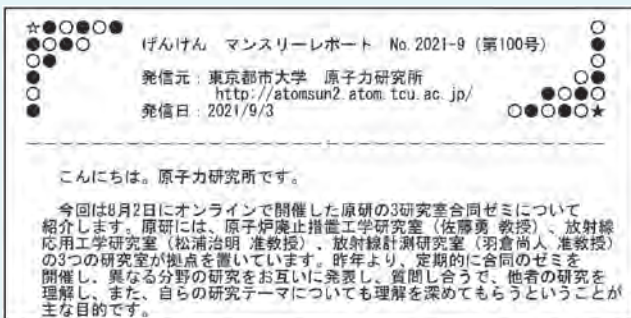
管理室員 羽倉尚人（2005エネルギー基礎）

毎月一度の情報発信！げんけんマンスリーレポート

1960年に開設された原子力研究所は61年目となりました。研究所の中心である「武蔵工大炉」は1963年から1989年まで運転してきましたが、すでに運転停止後の方が長くなりました。

廃止措置を行っている原子炉施設は日頃どんなことをしているのか？あまり知られていない原子力研究所の日常を少しでも学内外の方に知っていただくことを目的として2013年6月から毎月一度、学内のメーリングリストにて情報発信をしています。2021年9月には100号を配信しました。学生実験を中心とした教育活動や研究室の発表会などを紹介するとともに、施設の維持管理において重要な日々の管理業務についても紹介しています。バックナンバーはホームページでも公開しており、これを見た卒業生が連絡をしてきてくれた時には情報発信の重要性を改めて感じました。HPからぜひ一度ご覧ください。

（原研 HP：http://atomsun2.atom.tcu.ac.jp/）



第100号のマンスリーレポートの冒頭部分

■自然科学科

主任教授 橋本 義武

自然科学科は知識工学部の定員25名の学科として誕生してから2021年度で13年目、理工学部に移ってからは2年目となります。現在の定員は60名です。知識工学部時代には歴史ある他学科の方々より多くのことを教えていただきました。理工学部に移ってからも、同じ学部となった歴史ある他学科に学びつつ、歩みを進めております。

近年、中島先生・服部先生・津村先生・西村先生と、若手のメンバーが増え、それぞれが研究に教育に学科運営に活躍されています。彼らの研究がメディアに取り上げられたり、学内で表彰していただいたりということがあると、学科の皆で喜んでおります。科研費を獲得する教員が増えて参りましたことも有難いことです。

2019年度の水害、2020-21年度のコロナ禍と、残念ながら学生たちには誠に気の毒な状態が続いています。自然科学科の教員は全学の数学・理学の基礎教育の務めも担っておりますので、オンライン授業への対応等で例年にも増して多忙を極めている毎日ですが、困難の中にある学生たちのために我々ができることをしっかりやって参りたいと思っております。

学生の就職活動に際しては、卒業生の方々に大変お世話になっております。活躍されている諸先輩方と直に接する中で、学生たちが見る見る成長していく姿に目を瞠っております。歴史の浅い自然科学科ですが、これから本学科の卒業生たちが大学のために貢献していただけますことを願っております。



自然科学科津村准教授の研究成果

■建築学科

主任教授 堀場 弘 (1983建築)

建築学科の学びの中心である製図室は、コロナ前は24時間学生が活動していましたが、今年の前期末は閑散としました。前期最後の設計の授業でもオンラインでの作品講評会という新たな風景となりました。11月現在では、コロナが落ち着いて学生も大学に徐々に戻り、日常の大学風景を取り戻しつつあります。しかし、まだまだウィズ、アフターコロナは試行錯誤の段階です。コロナの影響で学生の先輩後輩のつながりが希薄になったことが気がかりです。受け継がれてきたさまざまな模型製作の方法や課題への取り組みのスキルなどの伝達が途切れてしまっていないかも心配です。一方、低学年の保護者会では学生が勉強しすぎて心配という声も聞かれました。学生がコロナによるさまざまな制約を受けて、萎縮してしまうことも懸念されます。本来人生の中で最も自由に挑戦できる時代であるべき学生たちに、感染防止を図りながら、できるだけ早くその環境を実現してあげたいと思います。学科の自由な雰囲気をごどのように再生するか大きな課題です。

2021年4月から一気に3名の先生が着任しました。建築計画の中川准教授、木構造の落合陽講師、歴史の片桐悠自講師です。皆さん若く、興味深い研究分野の先生ばかりです。これからの活躍が期待されます。建築学科に新しい風を吹かしていただけるように、思っ存分活動していただきたいと思ひます。



設計授業の様子



オンライン講評会

■情報科学科

主任教授 向井 信彦

情報科学科の近況報告をさせていただきます。2020年度(2021年3月)の卒業生は114名で、2021年度(2021年4月)の新入生は112名でした。入学式は各学科に分かれて、学長メッセージをビデオで拝聴するという簡素な形式であり、例年行っています保護者への教職員の紹介は行わないことになりました。2020年4月より授業は、新型コロナウイルスの感染状況に応じて発出される緊急事態宣言に従い、完全オンライン型と一部の対面を認めるハイブリッド型との併用が続いています。2021年後期授業も現状では完全オンラインを中心とする方針が継続されており、まだまだ先が見えない状況です。このような状況ですが、本学科には相原先生と陳先生の2名の先生が新たに着任されました。相原先生は志田先生の後任ですが、既に教育講師としてプログラミングなどの授業を担当して頂いておりましたし、教室会議にもご出席頂いておりましたので、本学科については既によくご存じの先生です。もう一人の陳先生は宮内先生の後任で女性教員です。本学科には既に3名の女性教員がおられますので、陳先生を含めて4名の女性教員となり、本学科の教員(含技術職員)に占める女性の比率は25%となります。また、大連交通大学からの留学生も例年に比べて少なかったのですが、それでも2名の女子学生が留学してきてくれました。2週間の隔離期間を経るなど様々な困難を乗り越えて必要な単位を修得し、7月30日には無事、最終発表会を対面にて開催することができました。このような状況が続きますが、今後とも、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。



大連交通大学留学生の発表会にて

■都市工学科

主任教授 白旗 弘実

都市工学科の近況報告をいたします。緑土会会長・本学副学長でもありました皆川勝先生が2020年度をもちまして、定年によりご退職されました。現在は成城にある都市大付属中学・高校の校長先生をなさっています。高大連携も重要になってきており、今後ともよろしくお願い申し上げます。

2021年度に入りまして、100名の新入生が入学しました。4月は、講義はハイブリッド形式でしたが、5月と6月は遠隔、7月にはハイブリッドにもどりましたが、8月には再度遠隔となりました。4月はそれなりに多くの学生がキャンパスに来られたようでしたが、一旦遠隔になると7月はそこまで多くの学生が来ていない印象でした。

研究室も例年ですと夏休み期間の8月に実験はじめ研究活動が本格的になってくるのですが、入構制限されて学生にも気の毒でした。課外活動も同様です。一方で遠隔のインターンシップも行われ、それなりの数の学生が参加していたようです。都市大人脈を利用した参加もあり、校友会(緑土会)の皆様のご協力にお礼申し上げます。

9月には昨年度受審するはずであったJABEE(日本技術者認定機構)の審査を受けました。原子力安全工学科との共同審査の形であり、遠隔会議ツールを用いた審査となり、初めてづくしでもありました。

10月には稲垣具志先生が計画・マネジメント研究室に准教授として着任されました。ご専門はバリアフリーをキーワードとした交通計画、都市計画です。今後の学内の研究連携などよろしくお願いいたひます。

後期(10月)に入りまして、感染者も減少し講義もハイブリッド形式にもどります。学内では引き続き感染防止に取り組みます。校友会の皆様におかれましてはお体にお気をつけください。写真は10号館と新棟(B棟)建設(2021年10月初旬)の様子です。



■知能情報工学科

主任教授 森 博彦

2021年もCovid-19への対応に追われた1年でした。授業も感染状況によりオンラインとハイブリッドを行ったり来たりしています。マスク等で「大学に行けなくてつらい」との学生のインタビューを見かけますが、ハイブリッドでは対面希望者は数名にとどまり、現実とのギャップに本当かと首をかしげてしまいます。この原稿を書いている時点では、原則対面となったため、大学にも活気が戻ってきています。

その一方で研究室使用は、ワクチン2回接種後2週間の学生と学内でのPCR検査陰性(有効期限1週間)の学生のみ(20時まで)です。当然ながら、昔のように研究室で飲んで語り合うことなどできず、皆さんの多くがお持ちの学生時代の思い出もかなり限定的になっているように思ひます。

知能情報工学科においては、とても残念ですが、2021年3月で田村先生がご家庭の事情で退職され、山口大学に戻られました。また、2021年度末には、渡部先生が定年で退職されます。渡部先生には学科・大学院の運営に大きく貢献していただいておりますので、こちらも残念です。これで学科メンバーは森・芝・神野・塩本・田中・穴田・兼子・岡・藤田・薩川となってしまいますが、お二人の後任の人事を現在進めており、来年度は新たなメンバーをお迎えする期ができればと期待もしております。

この原稿を書いている時点では、Covid-19の感染はかなり収束しておりますが、新たな変異株がアフリカで流行しているというニュースも飛び込んできています。皆様におかれましては、心身ともにご健康で過ごされることを心よりお祈り申し上げます。2022年には現在建築中の新棟に学科全員が移転する予定でひます。機会がありましたら新しい建物にぜひお立ち寄りください。



知能情報工学科メンバー

■環境創生学科

主任教授 飯島 健太郎

理論だけでなく体感をもって環境を中心に据えた社会課題解決に臨む人材育成に向けて、実務に通じる学びと充実した実習・演習の科目群により理解を深めることは本学科の特色の一つである。よって実習・演習の科目群の存在は、受験生にとっても期待が大きい。2021年度も COVID-19による災難は継続しており、感染拡大防止対策のステージに応じて、完全オンライン授業、ハイブリッド型授業の対応によって学びの停滞が無いよう教職員最善を尽くしている。本学科の特色である実習・演習科目は極力リモート対応とすることが無いよう、教員、学生の感染防止対策を徹底しつつハイブリッド型授業対応期間を活用するなど開講体制を調整して対面での学びの提供を実現している。

学科学生の学びは、研究室活動やそれに伴ったプロジェクトへの参画、学会発表、課外活動や学園祭など、コロナ禍にあっても感染拡大防止対策を徹底しつつ活発に行われている。2020年度は中止せざるを得なかった横浜祭は、2021年度はリモート開催として実現し、本学科学生の熱心な環境活動や学術的取り組みを画面越しに見ることができた。一方、入学当初からリモート環境であった2021年度2年生への重点的なケアは引き続きの課題であり、今後、研究室配属後の体制も含め交流機会の拡充を図っていきたい。学生にとって環境への学び、そして人生の学びを深めるためには卒業生との交流も重要であり、校友会の皆さまには今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



演習において、学生は横浜キャンパスの保全林を活用して調査を行う

■社会メディア学科

主任教授 中村 雅子

最近の話題

社会メディア学科は、環境問題や国際問題などのグローバルな諸問題から、身近なコミュニケーションまで、幅広い現代社会の課題に対して「社会科学視座から情報メディアを駆使して解決を図る」ことを目指す学科です。このため「調査分析力（リサーチ力）」「アイデア構築・表現力（デザイン力）」「コミュニケーション力」が身につく実践的な教育を展開しています。授業外の学びの機会でも、「神奈川4大学メディアキャンプ」など、他大学や企業、行政、地域等との協働プロジェクト型の学習機会を多く取り入れています。

2021年度は引き続き COVID-19の影響で、本来の学科の特色である学外連携型の事業やワークショップ型の活動が難しい中、密を避けながらの実習や、オンラインやハイブリッドのコミュニケーションの工夫に積極的に取り組んでいます。

2021年8月のオープンキャンパスでは、在学生に参加してもらうトークコーナーを設けました。学生たちは、オンラインでの学びには、双方向機能を使っただけのコミュニケーションや、通学時間がないので授業後すぐに予習復習時間が取れることなど、デメリットだけでなく、メリットもあることを学生の目線から語り、受験生にも大学での学びに対する安心感を与えてくれました。



奥村教授：写真コンテンツ作成の実習の様子



岡部教授：箱（名刺入れ）作りのワークショップ成果物

■環境経営システム学科

主任教授 古川 柳蔵

2020年以降、コロナ禍という今まで経験したことがない状況の中で学生は環境経営や環境政策を学んでいます。緊急事態宣言中、学生は家で過ごす時間が長くなり、オンラインにより授業を受けてきました。社会は大きく変化しようとしています。新しい暮らし方や働き方を試行し、最適な状態を探っています。実は、厳しい制約の中で最適解を探すことは、環境経営、環境政策を考えることと類似しています。2030年にはSDGsを達成することが目標とされ、2050年にはカーボンニュートラルの世界を実現することが目標となっています。既に気候は変動し、異常気象が頻発しています。地球環境は待たぬしの状況にあります。この厳しい制約の中で後世のために私たちは豊かな暮らしを届けなければなりません。そのために、私たちは、今、当然だと思っている常識を見直す必要もあります。使い捨てを良しとする暮らし、大量生産大量消費に依存するビジネスモデル、いつでもどこでもといったあらゆる地域に同じサービスを提供することは、有限な地球上では実現ができません。長く使い、小量小生産にどのように付加価値をつけるのか、その地域でしか得られないサービスをどのように提供するのか考える必要があります。これまでの常識は未来の常識ではないのです。社会変革を起こす人材が求められています。このような状況を打破したいと思う人、集結しましょう。



どこにも売っていない自分好みの味の水をマイボトルで持ち運ぶ

■情報システム学科

主任教授 宮地 英生

情報システム学科は2013年4月に社会メディア学科と共に開設され、2022年度は10周年を迎えます。一方、2021年秋、情報メディア学科の最後の学生が卒業し20年の歴史を閉じました。4月に藤原賢二先生（ソフトウェア開発者支援）、11月に増田聡先生（ソフトウェア工学）の2つの新しい研究室が生まれました。時が経つのは早く、特に情報システムの変化は非常に速いものです。最近、機械学習、VRがブームとなっていますが、どんどん変わっていくでしょう。2022年度は学科卒業生で初めて博士後期課程へ2名が進学予定です。卒業生のみならずも戻ってきてください。現在、市野順子先生が未来都市研究機構の「VRx 社会的交流の場の創生研究ユニット」長として社会メディア学科、他大学と共同研究を進めており、私自身も別ユニットで都市生活学部の方々と人や車の流れの研究をしています。また、横浜キャンパスでは4学科共同でミツバチの育成や竹チップの利用を始めました。情報システムの技術は幅広い分野で求められています。最後に、藤井哲郎先生は2021年度でご定年となります。



「VRx 社会的交流の場」の研究の一環としてバイマックスが講義



竹チップ加工。堆肥作り、カブトムシ育成をキャンパス全体で進めています



ミツバチの巣作りも成功しました

■都市生活学科

学部長 坂井 文

卒業生の皆さんの学び舎であった等々力キャンパスから、都市生活学部は2022年4月、世田谷キャンパスに移転します。世田谷キャンパスの新棟は、1,2階の中心に位置する吹き抜けがランニングコモンズと連続し、大教室やイベントなどの様々な利用に対応できる開放的な空間計画になっています。学部の創設以来、学部と大学院都市生活学専攻の教育を支えてきた等々力キャンパスを離れ、他の多くの学部と近い距離で学ぶことによって学生や教員の交流がより深まることが期待されます。

また2020年からスタートした国際都市経営コースは今年、2年生後期にコース選択が行われいよいよ本格的に始動しました。国際的な活躍を視野に国際ワークショップに積極的に参加し、英語科目等を受講することになります。

新型コロナウイルス感染者数の増減変化が続く中、2021年の授業はオンラインや対面、また双方を利用したハイブリッド式等、その都度状況に合わせて行われてきました。学生の就職活動についても例年とは異なる様相となりましたが、キャリアセンターやすでに各界でご活躍の卒業生のサポートもあり、100%の就職率となりました。と同時に、大学院進学者の数も増加しています。都市生活学専攻はこれまでの修士課程に加えて博士課程が開設されています。

2022年3月には山根教授が定年退職されます。都市生活学部の創設以来、中心となって学部を牽引していただきました。これまでのご功勞に感謝申し上げます。

都市生活学部の近況は、学部ホームページにニュースとしても掲載されています。是非ご覧ください。

<http://toshiseikatsu-gakubu.jp/>



世田谷キャンパス新棟パース

■共通教育部

人文・社会科学系

主任教授 渡辺 一郎

本学系は、人社教育部門・体育教育部門・教職教育の3部門からなり、各部門それぞれの課題を追求し、さらなる全学教育の発展および社会に貢献できるよう、日々努力を重ねています。

◎人文・社会科学教育部門

教授 新保 良明

2020年4月に、倫理学を専門とされる山本史華准教授が教授に昇格され、これにより人社部門は教授3・准教授2から構成されるようになった結果、教養科目の提供のみならず、共通教育部内の各種業務においても多大な期待を寄せられるとともに、それを果たす責任をますます感じざるをえません。

さて、2020・2021年度は言うまでもなくコロナ禍の中に置かれ、本学も文字通り翻弄されました。学生の登学が禁じられる中、オンライン授業が行われるところとなりました。この授業形式は教室での従来型の対面式授業を不可能にしましたが、その一方で、講義履修におけるキャンパス移動を不要とした結果、学生は所属キャンパスで開講されていない教養科目の履修が容易になりました。私は世田谷キャンパスで教養科目を担当しているのですが、横浜・等々力キャンパスの学生の履修が一気に増え、1コマの履修者が300名を越える事態になりました。このような体制が今後どうなるのか不透明ですが、等々力の2学部は2022年4月から世田谷に移転してきます。試行錯誤が数年続くかもしれません。

◎体育教育部門

教授 久保 哲也

現在、体育教育部門はSC4名、YC1名で構成されており、教育、研究はもちろんのこと、学生部委員やハラスメント相談室、体育会顧問、科学体験教室責任者等で積極的に大学運営業務に取り組んでおります。授業面では、2020年度からのCOVID-19の影響により、対面授業と同時に遠隔型受講生に対してもオン

■児童学科

人間科学部長 早坂 信哉

2021年度は現在101名の1年生が加わって等々力キャンパスで学生生活を送っています。2021年度の新入生が等々力キャンパスを経験する最後の学年です。また小林由利子教授が2021年度で定年退職されます。授業は、コロナの流行の状況によって完全オンライン授業、オンラインと対面が混在したハイブリッド授業、またコロナが落ち着いてきた11月からは対面授業と授業形態が度々変更となって落ち着かない状況ではありますが、学生、教職員の皆さんは柔軟にその時々環境に合わせて授業を運営展開しています。学生の皆さんには、貴重な学生時代の時間をなにかと不自由な思いをさせていることを心苦しく感じています。

特に学外実習は、コロナの流行のため予定を組んでは変更ということの繰り返しで学生・教職員とも大変な負担となっており、早くコロナの終息を願うばかりです。最後の等々力祭もすべてオンライン開催となりました。一方で毎年本学部が中心となって渋谷区と開催している渋谷福祉学会では、最近卒業したばかりの本学部卒業生が社会人として元気に活躍されている様子を見聞きすることもあり、コロナにも負けな

いたくましさを感じることもありました。2021年度末には長らくお世話になった等々力キャンパスから世田谷キャンパスへと移転します。本学部が入居する新7号館は、これまでの等々力のレンガ壁の建物からまったく装いも新たにピカピカのガラス張りのスタイリッシュな建物になりますが、皆さんの母校であることに変わりありません。ぴっぴもいっしょに移転します。教職員一同の懐かしい笑顔は変わらず、卒業生の皆様のお帰りを楽しみにしています。尾山台近くにおいでの際は、ぜひ新しいキャンパスにも足を延ばしてください。お待ちしております。



1号館入り口の現在 自動体温計で体温を確認してから入構



現在の等々力キャンパスでの授業の様子 原則対面で開催 (2021年12月撮影)

デマンド教材の配信をして対応しております。オンデマンド教材は自宅でも運動実践が行えるような内容を心掛け、非常勤講師を含む部門全員で協力して授業回数分を作成致しました。それに加え、オンラインでの実技授業も行っており、画面を通して学生と共に汗を流しております(写真)。

教育面では、毎年、部門内からベストレクチャー賞やEFR賞(オンライン版ベストレクチャー賞)を受賞する等、高い評価をいただいております。現在は2022度からの2キャンパス化に伴う学生増に対応できるよう、体育施設の充実化を進めているところです。今後も学生の心身共に健全な発育・発達に貢献できるよう、部門一丸となって更なる努力をしていく所存です。

◎教職教育部門

教授 井上 健

今年度も、コロナ禍の影響で、右往左往させられました。「介護等体験」(2年次)は「緊急事態宣言」が発出されるたびにキャンセルされてしまいましたが、「教育実習」(4年次)は、すべての学生が無事に修了することができ、胸をなで下ろしました。難しい時期に学生たちを受け入れてくれた実習校の皆さまには深く感謝しております。

さて、教育界では、「GIGAスクール構想」などICTの活用が話題になっています。もちろん、ICTを取り入れるだけで、「よい教育」ができるわけではありませんが、学生たちは短時間に新しいスキルを身につけて、当たり前のように日々の生活に取り入れています。そうした学生たちの逞しい姿をみるにつけて、コロナ禍の不自由さが「未来の学校」の揺籃になるのではないかと感じます。私たちも、学生に負けぬように、「ポストコロナ時代の新しい教育」を模索していきたいと思っております。



■共通教育部自然科学系

主任教授 山口 勝己

共通教育部自然科学系は、数学教育部門、情報教育部門から構成されており、2021年度は7名の専任教職員、139名の非常勤講師という体制で、主に理工学部・建築都市デザイン学部・情報工学部の工学系基礎科目の教育と研究を担当しています。また、物理学教育部門と化学・生物・地学教育部門については、自然科学の教員が担当しており、数学教育部門についても自然科学の教員と連携して教育を行っています。また、これまでと同様に、大学院工学研究科の共通教育も担当しています。

今年度もコロナ禍のためにオンライン授業やハイブリッド授業が実施されましたが、オンライン授業を活用した取り組みも行われるようになっております。この状況をきっかけとして新しい指導方法の開発などを行い、より高いレベルの授業を提供できるよう非常勤講師の先生方も含め全員で努力しています。

◎自然科学系／数学教育部門

畑上教授が昨年度で退職され、井上准教授、古田准教授、出未准教授、森田教育講師の4名体制となっています。畑上教授には引き続き、客員教授として研究面で貢献していただいております。また、自然科学の橋本教授、中井准教授、服部准教授と連携して教育研究活動を行っています。

◎自然科学系／情報教育部門

山口教授、安井講師、荒木教育講師の3名体制で、主に理工学部・建築都市デザイン学部の情報基礎教育を行っています。また、情報基盤センターの整備・運営にもセンター職員と協力して参画しています。

■総合研究所

所長 野中 謙一郎

東京都市大学総合研究所は、2004年4月に武蔵工業大学総合研究所として等々力キャンパスに設置され、以来、本学の特色ある先端的研究を推進すると共に、大学院生、学部生に対し、先端的教育環境を提供して参りました。2021年度の研究組織は、機構が2、研究センターが10、卓越教員研究室が2、インキュベーションラボが1、重点推進研究ユニットが7からなる体制でした。研究分野は、未来都市、ナノエレ、インフラ、エンジン、緑地創生、地盤、子ども・福祉、ロボット、ミネラル結晶体、災害制御、太陽電池、マイクロシステムなど多分野に渡ります。研究組織の多くは、学部所属教員が併任として参画されており、今年度は全学部から約100名の先生が参加しています。昨年から続くコロナ禍で研究活動を制限されながらも、各研究組織で外部資金を獲得しながら研究を推進するとともに、総研セミナーによる研究紹介や成果報告を行っています。今後も大学全体の研究をリードしていけるように一層の尽力をしていく所存です。



等々力キャンパスの総合研究所と世田谷キャンパス新6号館

■外国語共通教育センター

主任教授 植野 貴志子

外国語共通教育センターでは全学統一カリキュラム「都市大スタンダード2.0」に基づき、国際共通語である英語の運用能力を養うとともに、国際社会で求められる幅広い教養や英語以外の外国語を学ぶための多様な科目を展開しています。

2021年度は、コロナ感染状況に応じて、オンライン、ハイブリッド、対面を含む異なる形態による外国語教育を行いました。特にオンライン、ハイブリッドの授業では、教員と学生、および、学生間のコミュニケーションを充実したものにするために様々な工夫がなされました。そのひとつとして、ITスキルの高い教員が、Nearpodと呼ばれるインタラクティブな活動を可能にするツールを取り入れた授業のデザインを提案し、他の教員も実際に取り入れたことが挙げられます。

また、2021年度からの新しい試みとして、1年生全員を対象とした英語のe-learningを導入しました。e-learningの実施により、継続的学習を促し、英語基礎力を増強することを目指しています。オンライン学習が日常化したこともあって、学生はスムーズにe-learningに取り組んだようです。教員からの声掛けを徹底することにより、ごく一部を除き、ほとんどの学生が目標を達成することができました。外国語学習が、学生にとって、将来のキャリアを見据え、自律的な学びを発展させていくための契機になればと願っています。

2022年度は、学生が本格的にキャンパスに戻り、活発な対面授業が行えるよう願っています。コロナ対応を通じて培った知識や技能を活かして、より効果的な外国語教育が提供できるよう外国語共通教育センターの協力体制を強化していきたいと考えています。

■ナノ科学技術学際研究センター

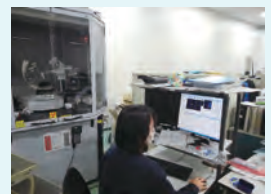
センター長 野平 博司

幸いなことに、主な分析機器が設置されている2号館は、少し高くなっていることで、ギリギリのところまで台風19号による浸水を免れ、一部機器に被害はあったもののセンター全体としては大きな被害は受けず、受けた被害も2020年4月の時点ではすべて復旧しました(図左)。また、2020年3月に新しい共用機器として陽電子消滅時間計測装置も加わり、2020年4月の時点では本学の研究をフルにサポートできる状態でした。しかし、ご存じのように、2020年度に引き続き2021年度もコロナ禍で本学への入構規制の影響もあり、学内外問わずナノ科学技術学際研究センターの利用が困難となり、その間は試料送付による依頼分析を行うこともありました。全体としては利用が大きく減少しました。しかし、コロナ感染状況が落ち着いた現在は、“3密”を避けながらも例年通りの利用に戻っております。本年度は、8/27にSCAN TECH 2021(日本顕微鏡学会 走査電子顕微鏡分科会)と10/29に初心者のための分析セミナー(表面技術協会)をオンラインで開催しました。12月以降には、東海大学との連携による機器利用説明会や分析技術講習会をオンサイト/オンラインのハイブリッド形式での開催を予定しております。

来年度は状況次第ではありますが、本学の研究活動を支援するために、機器分析セミナーの共同開催やSCAN TECH 2022の開催(2022/9)などを予定しています。



ナノ科学技術学際研究センター



現在の利用風景(11月)

■機親会

会長 大谷 真一 (1976機械)

2021年度は引き続きコロナ禍の影響もあり対面での行事を自粛せざるを得ない中、メール審議により、理事・評議員会(6月)を開催し、第15期の理事・役員を選出し、大谷真一氏(1976機械、現名誉教授)を会長として選出した。

2021年度定期総会を11月13日(土)にオンラインで実施した。76名の参加登録があり、当日は約60名の参加があった。大谷新会長のもと、新たな機親会の門出となった。大谷新会長から、今後ハイブリッド方式(対面+オンライン)を活用して、機親会の活性化を図って行きたいとの就任挨拶があった。その後、大谷会長により「日本刀の力学的バランス」というタイトルで基調講演があった。

尚、機親会のホームページを更新しましたので、是非ご覧下さい。

〈機親会 HP〉 <https://kishinkai.tcu-alumni.jp/>



総会参加者の皆さんで記念撮影

■緑土会

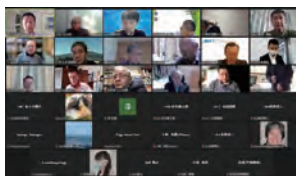
会長 松浦 弦三郎 (1976土木)

緑土会は毎年11月頃に総会及び懇親会を盛大に催しておりましたが、2020年度はコロナ禍の影響により中止を余儀なくされました。2021年度も同様、予定していた活動はほとんど中止とし、メール審議のみの対応となりましたが、総会はZoomによるオンライン形式で開催しました。2022年度の総会及び懇親会は対面での開催を期待しております。

以下に、2021年度の各部会の活動報告をお知らせします。

- 財務部会：伊藤和也部会長より収支内容の報告
 - ・コロナ禍の影響によりほとんどの活動が中止になったため、支出・収入とも少ない状況です
 - 組織管理部会：平本公男部会長より組織活動に関する報告
 - ・8月にオンラインによる部会を一年半ぶりに開催し各自の近況報告を行いました。今後四半期毎に部会を開催する予定です。
 - 学生支援・セミナー部会：谷田孝二副部会長より報告
 - ・毎年春に学生支援活動の一環として「学生支援会」を開催していますが、今年度はコロナ禍の影響で開催を断念しました。
 - 広報・校友会部会：高橋禎夫部会長より報告
 - ・コロナ禍の影響により活動が止まっています。今後は各部会と協力しながら進めていく予定です。
 - HP部会：黒沼良彰部会長より緑土会 HP に関する報告
 - ・久々に「りよくど No.49 (2021年9月号)」を発行しました。発行にあたり学生の富澤さんに協力いただいています。緑土会活動もオンラインが多く情報が少ない状況ですが、ホームページは随時発行していく予定です。
- ※緑土会 HP は大学>校友会>緑土会 で閲覧できます。

<https://tcu-alumni.jp/branch3/ryokudokai>



緑土会総会オンライン状況

■電友会

会長 石田 弥 (1970電気)

2021年度も昨年に続き新型コロナウイルス感染予防の為に残念ながらリモート(Zoom)活動となりましたが、総会において、地方や海外からの参加者があり、リモート活用の有効性も見えました。

●2021年度の主な活動報告

- ①幹事会 2021年4月18日(土)
 - ・電友会と通友会の事業活動や組織編制に関する検討を設置(中澤副会長担当)
- ②総会 2021年7月10日(土)
 - ・会長、副会長の改選は特例として対面活動再開後に常任委員会が選任し、それまで間は任期を延長する。
 - ・東京都市大学の電気電子工学科から電気電子通信工学科への名変更に伴う電友会会則の文言を変更。
 - ・講演会 岩尾徹理工学部長
演題「集約型社会を支える人材育成」

③学生支援

- ・電友会会長賞授与
博士後期課程：真栄田義史(写真)
修士課程：鈴木祐揮、林田隼弥
- ・電友会賞授与：学部・佐々木雅至、西川樂

●2022年度の主な活動計画

- ①幹事会、常任幹事会の開催
- ②会員支援(研究室、年度別などの同窓会)
- ③学生支援(会長賞、鳥山杯、技術士・電検三種の受験他)

●連絡先

事務局：denyukai@tcu.ac.jp
担当：鈴木恵史(2005電気電子)



電友会会長賞授与

■如学会

会長 小林 秀憲 (1982建築)

2021年度、如学会は先輩の方々が築いた歴史を継承しながら、新たな活動を見据えた組織としました。如学会は今まで卒業生相互、また学生に対して多様な活動を実施してきました。そして更なる活動を育むために、新たに若い卒業生がその中心となり、世代を超えてみんなで担っていく組織としました。

2021年度は、新型コロナウイルスの影響により、様々なイベントがリモートでの開催となりました。その中で新たな試みとして、9月13日から17日まで建築学科教室と連携し「キャリア開発」講義を実施いたしました。様々な職種や世代の11名の卒業生が、学生のキャリア形成を目的とし、職種・企業・就職活動について学部2年生を中心に講義を行いました。今まで如学会が実施してきた「前期進路ガイダンス」、「後期進路ガイダンス」と合わせ、学生個人個人の就職活動を段階的にサポートしていくことが強化されました。

また、「建築100人展」も2年ほど実施できませんでしたが、2021年12月に「浅草展」を実施いたしました。今回は新たな試みとして、リモートにおいて実際の展示会場を見られるようにしました。これにより実際の会場に来られない地方の方にも展示会の様子を見られるようにしました。また同時開催の「若手卒業生の今とこれから」をテーマとしたオンラインイベントを開催しました。

新たなスタートとなる1年でしたが、これからもその活動の輪を広げていきたいと考えております。



建築100人展

■通友会

会長 矢澤 猛 (1972通信)

校友会の皆様、いかがお過ごしでしょうか？

あまり多くない事を願いながら、新型コロナウイルスにより罹患された方々、並びにそのご家族の方々に対しまして心よりお見舞い申し上げます。

通友会の活動は2020年に引き続き新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言によって、ほとんどの活動が中止となりつつあります。本誌の原稿を書いています2021年11月現在、ようやく10月末に全国の緊急事態宣言が解除され感染者が大幅に減少してきています。まさに活動開始のシグナルを得た感じで、早速パネルディスカッションの企画を進めています。大学からも4thクォーターに入り全面的に対面授業が始まるとのグッドニュースも入ってきました。まだまだ第6波の心配もあり、油断のできない状況ではありますが、なんとか通友会の活動を通じて卒業生の皆さんと世の中を明るくしたい思いで取り組んでおります。パネルディスカッションに関しては私の知る限り通友会として初めての試みですが、後日その報告を出来ることを楽しみに役員一同頑張っています。

これからどのような日常になっていくのか定かではありませんが、校友会ならびに他学科同窓会との連携を深め通友会役員一同出来る限りの活動を企画、実行していきたいと思っておりますので、皆様のご理解ご協力をお願い致します。



オンライン会議の風景



2020年度の卒業生

■原子力友の会

羽倉 尚人 (2005エネルギー基礎)

設立10周年！在学生と教職員と卒業生の架け橋に

2011年11月に世田谷キャンパスにて設立総会を開催し、正式に発足した原子力友の会は2021年で10周年を迎えた。2008年に設置された原子力安全工学科の学科同窓会として立ち上げられたが、同時に王禅寺の原子力研究所にて卒論・修論に取り組んだ修士生の同窓会でもある。王禅寺の修士生は学部生が1968年から、大学院生は1982年から現在までにのべ670名を超える。原子力安全工学科ができる前は、電気や機械やエネルギーなどの学科から学生が集まり研究室を構成していた。元々の所属は違えど王禅寺の研究室で大学時代のもっとも濃密な時期をともに過ごしたことで思い入れが強い。

「10周年の節目となる今年度は何かイベントを」と計画していたが昨年度に引き続き COVID-19感染拡大防止の観点から会合は見送らざるを得なかった。コロナが落ち着いたところに改めて企画したいと考えている。こうした厳しい状況にあっても社会へと巣立っていく学生はいる。そうした卒業生との交流の機会も今後作っていきたい。

(<http://atomsun2.atom.tcu.ac.jp/tomo/index.html>)



2020年度の学位授与式での原子力友の会賞の授与

■経友会

会長 海老沼 利光 (1974経営)

1) オンライン活用の役員会は「メリット」があります

オンライン役員会を定例的に開催し、事業計画、学生支援策、予算案などを企画立案、審議しています。オンラインでは、移動の時間が節約でき、地方で活躍する現役員とのコミュニケーションが容易にとれるという利点があります。コロナ禍が一日も早く収まることを祈りつつ、今後も、「対面とオンライン」のハイブリッドで活動してゆきます。

次年度以降も「総会・懇親会だけの活動」にならない様に心がけます。

2) 学生支援活動：「エビ会」を継続しています

学科研究会：知湊会（旧経工会）の学生の皆さんに自主研究会：「エビ会」を継続しています。実践体験談や就職活動の支援を開始して5年目を迎えました。また、エビ会活動の学生成果を「校友会10周年記念事業の一環」に参加したく取り組んでいます。

3) 今年も「経友会ニュース」でお知らせします

経友会活動をお知らせする「経友会ニュース第14号」を2022年4月1日に発行を予定しています。70歳以上の会員にはご自宅へ郵送配布します。70歳未満の会員には、お手数をお掛けしますが、ペーパーレスにより郵送費を節約したく、経友会ホームページ掲載をご覧ください。



オンライン学生指導会「エビ会」の様子

■さきがけ

宮内 和輝 (2016自然科学)

With コロナの新しい生活様式が定着しつつありますが、依然、新型コロナウイルスの脅威は収まらず、学科同窓会としての期待は高まりつつあります。人との交流を制限せざるを得ない状況で、新たな出会いや人とのつながりを創生する役割を果たすことが極めて重要と考えながら、さきがけは同窓会活動に取り組んでおります。本同窓会における2021年の事業は下記の通りです。①2020年度さきがけ賞授与（6名）②会報「さきがけ」第10号発行③ホームページ更新④2021年自然科学科ホームカミングデー。自然科学科の在学生増加に伴い、さきがけ賞の授与者数をこれまでの3名から6名へ増やしました。受賞者は、池上 聖人さん、小林 星羅さん、櫻井 耀亮さん、武田 創佑さん、辻 涼介さん、渡邊 萌さんです。また2021年11月にホームカミングデーを開催し、学生・卒業生・教員延べ35名の参加がございました。ホームカミングデーでは主任教授の橋本義武先生のご講演のほか、卒業生二名の講演会を行いました。そのほか、各種活動状況は、さきがけホームページに掲載しております。

さきがけにおいては、新規スタッフの募集をしております。ご協力を頂けるかたは sakigake_tcu@yahoo.co.jp までご連絡をお願いいたします。



さきがけホームカミングデーオンライン

■等々力会

副会長 渡部 悠 (2013都市生活)

《近況報告、2021年度報告と2022年度予定》

2009年4月、東京都市大学と改称して以降、等々力キャンパス（都市生活学部・人間科学部）からは毎年約270名の卒業生がおります。

その為、2022年3月で等々力キャンパスとして卒業生が出てから10年となり、学科同窓会である「等々力会」として所属する人数も約2,700名となります。

卒業生の皆さんそれぞれ、社会で活躍されたり家庭を築かれたりと、大学で得た経験を基に忙しく過ごされていることと思います。

卒業生の皆さんにおかれましては、忙しく過ごされている方々が多く目の前のことに注力する期間がまだまだ続く時期になるかと思いますが、ふと立ち止まった時に大学や卒業生同士で連絡を取り合うことが出来るコミュニティーを作りたいと思っています。

2021年度はなかなか叶わなかったものの、コロナ禍で得た経験を糧に直接会えなくても繋がりを持つことへの手段を考え実施していきたいと思っています。

また、大学や卒業生同士だけでなく、在校生との繋がりを作っていく卒業生だからこそ出来る内容へもチャレンジしていきたいと思っています。

「個」では無く「等々力会」として次世代へと繋げていく接点を持つことにも繋がる為、大変重要なことと感じます。

学部・学科・研究室・部活・サークルなど様々な接点を繋ぎ、「縦」と「横」の繋がりをより強化していくことが必要であり課題となります。

2022年度は、上記環境を作るべく考慮し時には他学科同窓会にも力を借りながらより良い「等々力会」としていききたいと思っています。



コロナ禍前に開催されました等々力ホームカミングデーの写真です

■新美砂会

副会長 川辺 加代子 (1975国文)

懐かしい学び舎とお別れ

かねてより周知されておりましたが、2022年3月末をもって等々力キャンパスは世田谷キャンパスに統合され、4月からは世田谷・横浜の2キャンパス体制となります。1953年4月、1回生50余名が期待に胸を膨らませ晴れやかに入学して以来約27000人の女子学生を育み、社会に送り出してくれた学び舎は、私達旧東横学園女子短期大学の卒業生にとって青春時代を過ごした思い出溢れる懐かしい場所でしたが、このほど長きに亘る役割を終え、幕を閉じます。

これまで毎年開催されてきた等々力キャンパスホームカミングデーや会報「都市」で、残り少ない中、懐かしい学び舎を訪れていただきたいと呼びかけて参りましたが、2020年初頭に発生した新型コロナウイルスの感染対策のため構内への立ち入りが出来ない状況になってしまい、その機会を失ってしまったことが何より残念でありませんが、若き日の思い出と共に私達の記憶に残ることは間違いないでしょう。今後は気持ちも新たに、世田谷キャンパスで行われる諸行事に参加していただきたいと思っています。

なお、キャンパス統合に伴い新美砂会事務局は閉鎖となり、今後は校友会事務局が窓口となります事をご承知ください。



2019年度総会

校友会館自由が丘クラブ

オンライン環境を整備し、
ハイブリッド型web会議、web講習会、
webセミナーなど様々なスタイルでの
ご利用が可能となりました。

■web会議設備

- ・ 広角webカメラ
- ・ web会議用マイク&スピーカ
- ・ 光通信回線
- ・ web会議用大型モニタ
- ・ Wi-Fi利用可



当クラブ利用の様子は、facebookでも
ご覧いただけます。



facebook 自由が丘クラブ

検索

<https://www.facebook.com/jiyugaoka.club/>



当クラブ利用のご利用予約、お問い合わせ方法は、
HPをご覧ください。



東京都市大学自由が丘クラブ

検索

<https://jiyugaoka.club/>



2021年度 就職動向と支援

学生支援部部长 住田 暁弘

新型コロナウイルスの影響と就職環境

2021年3月卒業・修了生の就職状況：新型コロナウイルスの影響を大きく受けることとなった21卒の就職状況ですが、最終的な就職（内定）率は全学で97.4%と全国平均96.0%を上回る堅調な実績を残すことができました。一番大きく変わったのは採用手法で、4月の緊急事態宣言を受けて、企業はスケジュールを変更するだけでなく、採用・選考の方法を「オンライン説明会」や「オンライン面接」に切替えて実施しました。多くの企業が従来の対面形式からオンラインによる情報提供や選考に大きく舵を切る一方で、オンライン化に対応できないもしくは対面での選考に強くこだわった企業は採用選考を宣言が明けるまで一時休止したり、中には業績の悪化により採用計画自体を見直す企業もありました。求人倍率も2020年3月卒対象の1.83倍から1.53倍に落ち込み（リクルートワークス研究所）、このような環境は学生に活動スケジュールの急な変更やオンライン選考への対応、希望業界や企業の見直しなど、例年にはない大きなストレスを与えました。キャリア支援センターでは、そのような状況をいち早く受け止めてキャリアカウンセラーとの就職相談や就職支援プログラムをオンラインへ移行、不安を抱く学生に従来と変わらない就活支援を提供できるようにシフトしました。暗中模索で採用活動・就職活動が進行し様々な情報が行き交う中、適切な情報と丁寧なサポートを学生に提供できたことや、さらにはオンラインに移行した中でもリクルーターをはじめとして本学卒業生の手厚いご支援もあり、表のような継続した実績につなげることができました。

2022年3月卒業・修了生の就職環境：新型コロナウイルスの影響も2年目となり、一部の業界で採用見合わせや大幅な採用縮小など求人数の落ち込みがみられたものの、逆にビジネスチャンスを得た業界は求人数を増やすところもありました。求人倍率としては、当初予想されていたほどの大幅な落ち込みはなく、前年度並みの1.50倍に落ち着きました。長く続いた緊急事態宣言下では既に採用ツールとして定着した感のあるZoomなどを利用した「オンライン会社説明会」や「オンライン面接」がスムーズに展開され、採用手法の多様化が一段と進んだ印象です。

2020年夏のインターンシップもオンライン化が進みましたが、多くの企業で実施が見送られるなど、全体ではコロナ前より社会人との接触機会が減る傾向となりました。しかし、インターンシップや「1 Day 仕事体験」と言われる企業との接触イベントから早期選考へとつながる傾向も強まりつつあり、学業に悪影響を与えかねない「就活の早期化」が問題視されています。

文部科学省発表の2021年12月時点での国公立大学の平均内定率は「83.0%」となりました。本学においては12月時点で学部生は86.5%、大学院生では95.1%の内定率となっております。全国平均に比べて十分健闘をしておりましたが、本学としましては、まだ活動を継続している学生に対しての支援は最優先と認識しております。これからも学内でのオンライン企業セミナーや継続して採用している企業の情報を収集し一層の就職活動の支援を実施してまいります。これからの時期、「モチベーションの維持」「活動を続ける姿勢」が重要なポイントとなります。

来年度の2023年3月卒業生の採用選考時期も今年度と同様となりますが、採用選考の多様化や国内外の経済、政治の変動による環境の変化の可能性は高まっています。学生が変化に戸惑い、不利益を被らないように本学としても十分に対策をしていきます。校友会の皆様からも学生への直接的、また情報提供などの間接的なご支援も一層賜りますようお願いいたします。

近年の主な就職先

最近3か年の主な就職先を以下に示しました。より詳細な資料は大学ホームページ（HOME > 就職・キャリア > 就職実績 > 年度別主要就職先一覧）をご覧ください。

□民間企業	3カ年 合計	2021年 3月卒	2020年 3月卒	2019年 3月卒
富士電機	35	15	13	7
日本電気（NEC）	31	14	10	7
大成建設	26	9	12	5
キヤノン	26	5	9	12
東京電力ホールディングス	26	10	7	9
本田技研工業（Honda）	25	7	8	10
東日本旅客鉄道（JR東日本）	22	2	9	11
東海旅客鉄道（JR東海）	21	7	6	8
大和ハウス工業	19	6	6	7
日立製作所	19	9	7	3
SUBARU	19	9	4	6
いすゞ自動車	17	10	4	3
スズキ	17	4	4	9
NECソリューションイノベータ	16	6	3	7
富士ソフト	16	5	4	7
清水建設	15	7	3	5
富士通	14	5	3	6
ミネベアミツミ	14	4	6	4
オカムラ	13	6	4	3
凸版印刷	13	6	2	5
東急建設	12	5	3	4
セイコーエプソン	12	1	7	4
京セラ	12	4	2	6
鹿島建設	11	5	2	4
パナソニック	10	3	4	3
日産自動車	10	3	3	4
エヌ・ティ・ティ・データ	10	2	4	4

□公務員	3カ年 合計	2021年 3月卒	2020年 3月卒	2019年 3月卒
横浜市	22	7	10	5
神奈川県	14	7	1	6
渋谷区	13	5	5	3
東京都	12	5	3	4
防衛省（自衛隊・総合職等含む）	11	2	2	7

校友会活動充実のための維持会費納入のお願い

校友会では、今後の活動を維持し、更に充実したものとしていくため、維持会費の納入をお願い致します。

なお、2021年2月1日～2022年1月31日までに維持会を納入いただきました方のご芳名一覧を校友会報「都市」本号（第9号2022年3月発行）の発送時に同封しております。

〈維持会費金額〉 1口2,000円

（1口以上何口でも結構です。）

* 税制上の控除はございません。

〈納入期間〉 いつでも受け付けます。

〈納入方法〉

①会報同封の払込取扱票により、ゆうちょ銀行より振

込……振込手数料は、無料です。

②各銀行窓口・ATM・ネットバンキングより以下の口座に振込……振込手数料は、ご負担ください。

【振込み先】 ゆうちょ銀行

店 名：〇一九（ゼロイチキューウ）

預金種目：当座

口座番号：0451231

口座名称：東京都市大学校友会

* 振込の際、会員番号（会報発送封筒記載）又は卒業年・学科をご記入ください。

〈お問い合わせ先〉 東京都市大学 校友会 事務局

TEL：03-3703-3862

mail：koyukai-jimu@tcu.ac.jp

2021年度「校友会進路相談会・オンライン」開催

この催しは、在学生在が各自に適した進路を選択できるような企業の先輩の方々にアドバイスしていただくことを目的として毎年開催しておりますが、コロナ禍の状況にあって2021年度も前年度に引き続き、オンラインにより11月10日（水）、11月18日（木）及び12月1日（水）の3日間（前年度2日間）実施しました。各日とも、始めに、松村校友会長からの挨拶、露木DX委員長からの実施要領説明があった後、企業毎の相談会を30分単位で5回設定し、学生が自由に入出りました。

参加企業は、実数93社、延べ158社（前年度＝実数92社、延べ136社）、参加学生数（登録数）は、254名（前年度331名）でした。今回はオンラインのメリットを生かし、地方支部所属の卒業生が関係する企業へも案内し、遠方の企業数社の参加がありました。

参加した学生からは、「先輩方の貴重なお話を聞いて良かった。」「先輩方の親身な対応が嬉しかった。」等との感想が多数寄せられました。今回の参加企業数は、前年度とほぼ同数でしたが、学生側の参加が前年度より減少したことが残念でした。

オンライン「リアル脱出ゲーム」開催

事業企画委員会 RING プロジェクトの企画による“オンライン「リアル脱出ゲーム」”を2021年5月15日（土）17：00～18：30に開催しました。このゲームは、閉鎖空間に閉じ込められたという設定で、密室に残された謎を3～4人のチームで解き、脱出するゲームで、今回20名の参加者が挑みました。

時間が限られていることもあり、残念ながら全員が脱出することはできませんでしたが、卒業生親子の参加もあり、和気藹々としたひとときでした。

今後も卒業生間の繋がりを構築できるような企画致しますので、ご興味があれば、是非ご参加ください。

* RING プロジェクト＝Resource Innovation Next Generation＝次世代イノベーションプロジェクト

⇒自然科学科の卒業生の呼び掛けで学科を問わず若い世代が集まって活動してきたグループで、2020年度から、校友会の運営に参画し、新たなイベントの企画・実施に取り組んでいます。



「2021年度定期総会」オンラインで開催

2021年度の定期総会は、新型コロナウイルス感染症の拡大のため、リモート（ZOOM）により5月15日（土）に開催致しました。以下の議題③までは、原口会長、議題④以降は、松村新会長がそれぞれ議長となって進行しました。

議 題：

- ①2020年度事業報告⇒承認
- ②2020年度収支決算報告⇒承認
- ③新会長の承認⇒原口会長の任期満了にともない次期会長候補者推薦委員会の推薦により、松村慶一氏（1974年機械）を新会長として承認
- ④監査役の承認⇒今期監査役として、吉田勝氏（1968建築）、水谷茂喜（大学事務局）を承認
- ⑤委員会・部会の組織変更に伴う会則・細則の改正・承認（委員会の組織変更は、P.29参照）

報告事項：

- ①2021年度事業計画
- ②2021年度収支予算
- ③役員、各委員会・部会の委員長・委員の紹介
- ④東京都市大学への義援金についての報告とお礼⇒2019の年台風19号による世田谷キャンパスの水

害に対する義援金（7,408,190円）を大学寄付した旨の報告と謝辞、また、校友会から、復旧支援費として1,000万円を寄付したことを合わせ大学（法人）から感謝状が届いた旨、報告がありました。

- ⑤維持会費についての報告とお願い⇒2020年度3,292,000円を納入していただいた報告と、謝辞及び引き続きのお願いがありました。
- ⑥東京都市大学リサイクル募金の報告とお願い⇒2020年度77,648円の寄付があった旨の報告と謝辞及び引き続きのお願いがありました。

議事終了後、校友会活動に功労あった方への表彰7名、叙勲・褒章を受章された方への慶祝5名を披露しました。

総会の資料（2020年度事業報告、同収支決算報告、2021年度事業計画、同収支予算、今期役員一覧、功労者表彰の方々及び叙勲・褒章の方々の氏名一覧等）は、校友会ホームページに掲載しておりますので、ご覧ください。

総会終了後、「東京都市大学創立100周年に向けてのビジョン」と題して、大上浩、関良明、野中謙一郎各副学長より、教育、研究、キャンパス連携のそれぞれのご担当の立場でご講演をいただきました。

ホームカミングデー

「ホームカミングデー・オンライン2021」
（全キャンパス）開催

昨年に引き続きオンラインにより、ホームカミングデーを12月11日（土）に129名の参加をもって開催しました。松村校友会長、三木学長の挨拶、大上副学長から、大学の近況報告があった後、初めての企画として、各キャンパスの最寄駅からのストリートビューを映し、更に各キャンパスの様子をライブで紹介しました。その後、学科同窓会、各支部、クラブ同好会等のブレイクアウトルームでそれぞれ懇談を行い、再び集合して、年末ジャンボ宝くじが当たる抽選会を行いました。参加者からは、「現在の大学の状況が理解できた。」「懐かしい仲間に来て良かった。」等の感想が多数あり、企画した成果の感触が得られました。

「横浜キャンパスホームカミングデー」
オンラインで開催

6月5日（土）に横浜キャンパスホームカミングデー（楷の木会同窓会）をオンラインにより、43名の参加をもって開催しました。第1部：「社会人になった君達に贈る言葉」と題して、矢吹理恵先生（メディア情報学部）に講演していただき、更に「卒業生のいま、そしてこれから」と題して、白石健太郎氏（2000年、環境情報）、中島敏博氏（2001年環境情報） 田野實温代氏（2012年環境情報）から講演していただきました。その後懇親会を行い、旧交を温め、成功裡に終わりました。

2022年度のホームカミングデーのお知らせ

〈横浜キャンパス：6月11日（土）予定 世田谷キャンパス：11月6日（日）予定〉

開催日、開催方法その他詳細は、大学ホームページへの掲載、校友会ホームページ、都市大校友オンラインでのメール配信にてお知らせ致します。

校友会の委員会・部会の組織変更について

2021年4月1日より校友会の委員会・部会の組織を以下のとおり変更致しました。

〈変更前〉		〈変更後〉	
委員会	付置部会	委員会	付置部会
総務委員会	会則・細則検討部会	総務委員会	会則・細則検討部会
	総会推進部会		総会推進部会
	RING プロジェクト		親睦行事部会 (賀詞交歓会、ゴルフ大会を含む)
	—		RING プロジェクト ※
企画委員会	賀詞交歓会部会	事業企画委員会	RING プロジェクト ※
	ゴルフ部会		校友会発足10周年記念事業推進部会
	親睦行事部会		—
財務委員会	—	財務委員会	—
広報委員会	ICT 部会	広報委員会	ホームページ部会
	会報編集部会		会報編集部会
—	—	デジタルトランスフォーメーション委員会 (略称：DX 委員会)	DX 推進部会
支部委員会	地方支部部会	支部委員会	地方支部部会
	職場支部部会		職場支部部会
学生支援委員会	—	学生支援委員会	—
—	—	大学創立100周年記念事業企画特別部会	—
—	—	産学連携推進特別部会	—
海外インターンシップ特別部会	—	海外インターンシップ特別部会	—
歴代会長・理事長会	—	歴代会長・理事長会	—

※ RING プロジェクト = Resource Innovation Next Generation (次世代人材イノベーションプロジェクト)

DX 委員会

委員長 露木 博視 (1980建築)

DX (デジタル・トランスフォーメーション: Digital Transformation) 委員会は、2021年度に前広報委員会・ICT 部会から独立発足した新規委員会です。

※ DX の X は、英語圏では「trans」を X と省略されることに由来しています。

“トランスフォーメーション”には、「変形・変革」という意味があります。織田信長が鉄砲を軸に物流・流通等の組織と制度を変え勝利したように、DX とはデジタルを活用して社会を変革することを指します。単なる情報化や IT 化ではなく、今までの商売やビジネスの流れをゼロベースで見直して、もう一度構築し直し良い方向に変革することを DX は目的とします。校友会における DX も同様に、校友会に集まる様々なデータを活用し、校友会活動が更に活発となるよう変革することを目的としています。

DX 委員会の具体的施策は、①校友オンラインの運用・活用、②校友会 HP の機能向上 (内容コンテンツは、広報委員会・ホームページ部会が担当)、③校友会資料ファイル等の情報共有、④総会、委員会、支部総会、学科同窓会、その他イベントなどへの Zoom オンライン支援です。特に④の Zoom は、コロナ禍においては必須ツールですが、コロナ後においても対面とオンラインを同時に行うハイブリッド方式で全国の OB を繋ぐツールとして展開していく予定です。

DX 委員会のメンバーは現在11名で、その内8名は2011年以降卒業の若い世代です。出身学科も、自然科学、情報科学、環境情報、情報通信、経営工学、経営システム、建築と多岐にわたっています。

経験力と若い力が一体となって活動していきますのでご期待願います。

【DX 委員会メンバー】



表紙解説

解説 勝又 英明 (1980建築)

第9号の表紙は、工事中的の新「7号館」(計画建設大会ではA棟と呼ばれていましたが、新年度からは新「7号館」となります。)を6号館4階の屋上より撮影(2022年2月5日)したものです。前号第8号とほぼ同アングルから撮影したもので、第8号の撮影は2021年1月25日でしたのでほぼ1年たった状態です。第8号の表紙と見比べてみてください。新7号館の竣工で、旧1~7号館、9号館(図書館)、14号館(学食、体育館)が建て替わりました。新7号館は2022年4月から都市生活学部、人間科学部の教育研究施設となる予定です。世田谷キャンパスは3学部(理工学部、建築都市デザイン学部、情報工学部)と2学部(都市生活学部、人間科学部)で5学部体制となります。

表紙写真で、新7号館の左手には10号館の妻側、その右には工事中的のB棟、右手には大規模改修中の3号館が見えます。新7号館は4月からの供用を目指して、外構や内装など追い込み工事中です。新年度になりましたら是非変貌するキャンパスをご覧ください。(それまでにコロナが収束することを祈っています。)



編集後記

羽倉 尚人 (2005エネルギー基礎)

校友会誌「都市」9号をご覧いただきありがとうございます。

依然としてCOVID-19の影響下にあり落ち着かない日々をお過ごしのことと思います。どうぞお体を大切に。一日も早く終息することを皆様と共に祈りたいと思います。

本号の編集にあたっては、全国各地の支部を広くご紹介したいという思いから、特に、これまでの号で登場する機会の少なかった支部の活動を取り上げるようにしました。職場にも、また、海外にも支部はあります。ぜひ支部を通じて校友会を身近に感じていただければと思います。

また今回は、等々力キャンパスの統合を大きく取り上げました。思い出の詰まったキャンパスが移転・統合されることを大変寂しくお感じの方は多いと思います。「もう私の学んだ大学はなくなってしまった」そうお感じの方もいらっしゃるかもしれません。

大切な母校の記憶・記録を誌面の中に少しでも残すことが本誌の役割であり、懐かしい写真を見て思い出を語らうきっかけにいただければと思っています。

決して母校はなくなっていない。これからも温かく、時には思いを馳せていただければと思っています。

末筆となりましたが、ご執筆いただきました皆様、編集にご尽力いただきました皆様および事務局に感謝申し上げます。

会報編集委員会

- 部会長：藤井 研一 (1982建築)
編集長：羽倉 尚人 (2005エネルギー基礎)
委員：江藤 和安 (1971経営)
委員：加藤 祐子 (1978国文)
委員：勝又 英明 (1980建築)
委員：衣斐喜美子 (1980家政)
委員：和多田雅哉 (1984電気)
委員：相澤 直人 (大学事務局)

2022年3月19日発行

東京都市大学 校友会 都市 vol.09

発行人 松村 慶一

発行所 東京都市大学 校友会

〒158-8557

東京都世田谷区玉堤 1-28-1

東京都市大学 1号館 4階

Tel.03-3703-3862

Fax.03-3703-4595

E-mail koyukai@tcu.ac.jp

URL <http://www.tcu-alumni.jp>

制作・印刷 株式会社耕文社

CONTENTS 2022 March Toshi vol.09

- 1-3 特別対談
創立100周年へつなげる 大学と卒業生との絆
東京都市大学 学長 三木 千壽
東京都市大学 校友会 顧問
東京都市大学 校友会 会長 松村 慶一
- 4-6 活躍する卒業生
- 7-11 支部だより
- 11-12 職場支部だより
- 13-14 新学部長挨拶
- 15-16 特集 等々力キャンパスが世田谷キャンパスへ移転・統合
- 17-22 学科だより
- 23-25 学科同窓会だより
校友会館 自由が丘クラブ 利用案内
- 26 2021年度 就職動向と支援
- 27 校友会からのお願いならびにご報告
- 28 2021年度 定期総会
ホームカミングデー
- 29 校友会の委員会・部会の組織変更について
DX 委員会
- 30 表紙解説・編集後記

東京都市大学校友会は2023年に発足10周年を迎えます！

2022年度 校友会定期総会について

開催日：2022年5月21日（土） 場所：世田谷キャンパス

13：00～14：15 総会（2021年度事業報告、同収支決算報告、2022年度事業計画、同収支予算その他）

14：30～15：30 講演会 テーマ：今、中世史のここが熱い！—「真田丸」の舞台裏—

講師：東京都市大学共通教育部 准教授 丸島 和洋先生

（丸島先生は、2016年NHK大河ドラマ「真田丸」の時代考証を担当されました。）

*ハイブリッド方式（対面及びリモートの併用）で行う予定です。ただし、コロナの感染状況によっては、リモートのみで行います。詳細は、校友会ホームページへ掲載及び都市大校友オンラインによりメール配信でお知らせ致します。

東京都市大学校友会リサイクル募金について

皆様から読み終えた本、DVD等をご提供いただき、その査定金額が東京都市大学校友会に寄付される取り込みです。

寄付金は、在学生支援事業に役立てられます。ご協力よろしくお願い致します。

梱包前にできるものとできないものをご確認下さい。



WEBでのお申し込み（24時間） 東京都市大学校友会リサイクル募金 kishapon.com/tcu-alumni/

電話でのお申し込み（9：00～18：00） ☎ 0120-29-7000 オペレーターに **208** とお伝えください。

（運営協賛）リサイクル募金きしゃぼん／嵯峨野株式会社

「都市大校友オンライン」のご案内

東京都市大学と東京都市大学校友会では、会員への情報提供に関わるサービス向上を図るため、

「都市大校友オンライン（<https://tcu-alumni.jp/new/tcu-online/>）」の運用を行っております。

- 「都市大校友オンライン」による web 版会員名簿では、開示されている情報の検索・閲覧ができます。
- web 版会員名簿の会員情報開示の可否は会員自身で設定できます。
- 「都市大校友オンライン」にログイン・登録された方には、校友会イベント等のメール案内を行っております。

「都市大校友オンライン」にログイン・登録をお願いします

「都市大校友オンライン」は、校友会イベントのご案内配信等様々な場面で利用され、導入の成果を上げています。

しかし、残念ながらログイン・登録された方は、全会員の16%に留まっています。より多くの方に登録していただくことが「都市大校友オンライン」の利用価値の向上に繋がります。

